

景況などに関する会員アンケート

調査結果

平成 26 年 11 月

北陸経済連合会

目次

1. アンケート調査実施概要	1
2. アンケート調査結果概要	2
総括	2
I. 景気動向	3
II. 業績	5
III. その他	
1. 産業人材の育成・活用について	7
2. 産学連携の取組について	9
3. 大学生のインターンシップについて	10
4. 外国人留学生の活用について	11
5. 産学連携交流会について	12
参考（アンケート調査結果）	13
I. 景気動向	13
II. 業績	16
III. その他	19

1. アンケート調査実施概要

○実施概要

北陸の景気動向や業況等について、会員の意見・要望も含め、迅速かつ的確に把握するとともに、各方面への要望活動等に活かすため、アンケート調査を実施した。
[今回で32回目]

○調査時期

平成26年9月29日～10月9日

○調査対象

北陸経済連合会会員企業

○回収率

回答率60.1%（送付企業301社、回収数181社）

○調査企業概要

本社の所在地	回収数	割合
富山県	72	39.8%
石川県	56	30.9%
福井県	17	9.4%
北陸三県以外	36	19.9%
計	181	100.0%

資本金	回収数	割合
1億円未満	68	37.6%
1億円～10億円未満	46	25.4%
10億円以上	67	37.0%
計	181	100.0%

調査結果の取りまとめにおいては、規模別を以下の基準で分類することとする。

【規模別】

- 大企業：資本金10億円以上
- 中堅企業：資本金1億円以上10億円未満
- 中小企業：資本金1億円未満

	業種	回収数	割合
製 造 業	食料品製造業	3	1.7%
	繊維工業	3	1.7%
	木材・紙・パルプ製造業	2	1.1%
	出版・印刷・同関連業	5	2.8%
	化学工業	6	3.3%
	鉄鋼業・非鉄金属製造業	8	4.4%
	金属製品製造業	6	3.3%
	機械工業	8	4.4%
	その他製造業	18	9.9%
	非 製 造 業	卸売業	16
小売業		3	1.7%
建設業		34	18.8%
電気・ガス・水道業		6	3.3%
運輸業		8	4.4%
農・林・漁業		0	0.0%
鉱業		0	0.0%
金融業・保険業		16	8.8%
不動産		4	2.2%
サービス業		23	12.7%
その他の非製造業	12	6.6%	
	計	181	100.0%

	業種	回収数	割合
	製造業	59	32.6%
	非製造業	122	67.4%
	計	181	100.0%

2. アンケート調査結果概要

[総 括]

北陸の景気動向 ……足もとは緩やかな回復基調にあることがうかがえ、 26年度下期見通しも良くなるとみる企業が増加

- ・現在の北陸地域の景気については、「すでに回復」「回復基調」とみている企業が66.3%となり、緩やかな回復基調にあることがうかがえる。
- ・26年度上期の景気について、景気判断BSI（「良い」と答えた割合から「悪い」を引いた値）で見ると、11.0となり、前回調査(64.3)から大きく減少したものの、引き続き「良い」が「悪い」を上回っている。
また、来期（26年度下期）の見通しについては29.8となり、今期(11.0)に比べ、良くなるとみている企業が増加している。
- ・現在の景気を「底這い」「下降」とした企業については、5割強(54.7%)の企業が27年度上期までには回復に転じるとみている。

業績 ……足もとは悪化の傾向にあるものの、26年度下期は改善を 見込む企業が増加

- ・現在の業績水準については、「大変良い」「良い」とみている企業が31.0%(前回36.3%)、「悪い」「大変悪い」とみている企業が19.3%(前回18.4%)と、前回とほぼ同様の傾向となっている。
- ・26年度上期の業績について、業績判断BSI（「改善」と答えた割合から「悪化」を引いた値）で見ると、今期は6.1となり、「改善」と答えた企業が「悪化」と答えた企業を上回ったものの、前回調査（25年度下期 39.9）からは大幅に減少した。
- ・来期（26年度下期）の見通しについては、19.8となり、改善を見込む企業が増加している。
- ・経営上の課題では、「人材養成・確保」（72.9%）とする企業が最も多く、次いで「国内販売力の強化」（53.6%）となっている。

その他

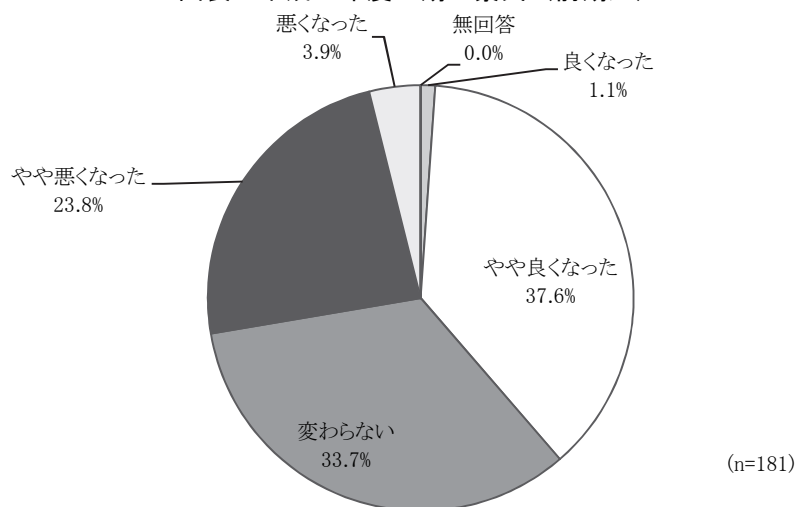
- 【1. 産業人材の育成・活用について】
 - ・採用に際し地元大学であることを考慮に入れるかについては54.7%の企業が「入れていない」と回答。採用する際重視する能力としては、「コミュニケーション能力」「協調性・チームワーク」「実行力・行動力」の順となった。
- 【2. 産学連携の取り組みについて】
 - ・『産学連携』への取り組みは、全産業では41.4%が取り組んでいると回答し、業種別では製造業で57.6%と非製造業の33.6%を上回っている。規模別で見ると中小企業（27.9%）に比べ大企業（55.2%）、中堅企業（41.3%）で取り組みが進んでいる。『産学連携』に求めるものは、「人材育成」（55.2%）「共同研究」（50.3%）「ビジネスマッチング」（40.3%）の順となった。
- 【3. 大学生のインターンシップについて】
 - ・大学生のインターンシップの受け入れについては6割の企業に経験があり、規模別に見ると大企業（65.7%）、中堅企業（63.0%）に比べ中小企業では44.1%と低下する。受け入れている目的については、順に「社会貢献活動」「交流ある大学との関係保持」で「主な目的」「目的」との回答があり、ついで「業界の広報活動」の順となった。
- 【4. 外国人留学生の活用について】
 - ・外国人留学生の採用については、24.9%の企業で「ある」と答えている。採用したことのない理由については、「受け入れ環境が整わない」（47.2%）「活躍できる職種がない」（43.1%）「社内で検討したことがない」（40.7%）の順となった。
- 【5. 産学連携交流会について】
 - ・「産学連携交流会」参加については、64.1%が「はい」「内容によって参加」と回答している。産学連携交流会の今後のテーマとしては、「人材育成」の声が最も多く、その他「インターンシップの活用事例」「ビジネスマッチング」「異文化交流」「国際交流」「地域社会の課題」「学生のアイデア」等の意見があった。

I. 景気動向

足もとは緩やかな回復基調にあることがうかがえ、26年度下期見通しも良くなるとみる企業が増加

- ・ 26年度上期の景気動向については、前期（25年度下期）と比べて「良くなった」「やや良くなった」とする企業が38.7%で、「悪くなった」「やや悪くなった」の27.7%を上回った。（図表1）
- ・ 26年度上期の景気について、景気判断BSI（図表2 ※）でみると、前回調査（25年度下期）の現状判断の64.3から、今回は11.0と大きく減少したものの、引き続き「良い」「やや良い」が「悪い」「やや悪い」を上回っている。業種別にみると、製造業が0.0（前回58.7）、非製造業が16.3（前回66.9）となった。
- ・ 来期（26年度下期）の見通しについては、29.8となり、今期（11.0）に比べ良くなるとみている企業が増加している。（図表2）
- ・ 26年度上期の北陸地域の景気については、「すでに回復」「回復基調」とみる企業が66.3%で、前回調査（84.2%）を下回ったものの、緩やかな回復基調にあることがうかがえる。（図表3）
- ・ 現在の景気について「すでに回復」「回復基調」とした企業に対し、その理由を尋ねたところ、「設備投資の回復」とした企業が51.7%と最も多く、「企業収益の回復」が50.0%、「公共投資の効果」が43.3%と続いている。（図表4）
- ・ 一方、「底這い」「下降」とした企業に対し、回復に転じると予想する時期を尋ねたところ、「27年度上期まで」とみる企業が54.7%を占めた。（図表5）

図表1. 平成26年度上期の景気（前期比）



図表2. 平成26年度上期の景気判断と見通し

※景気判断BSI

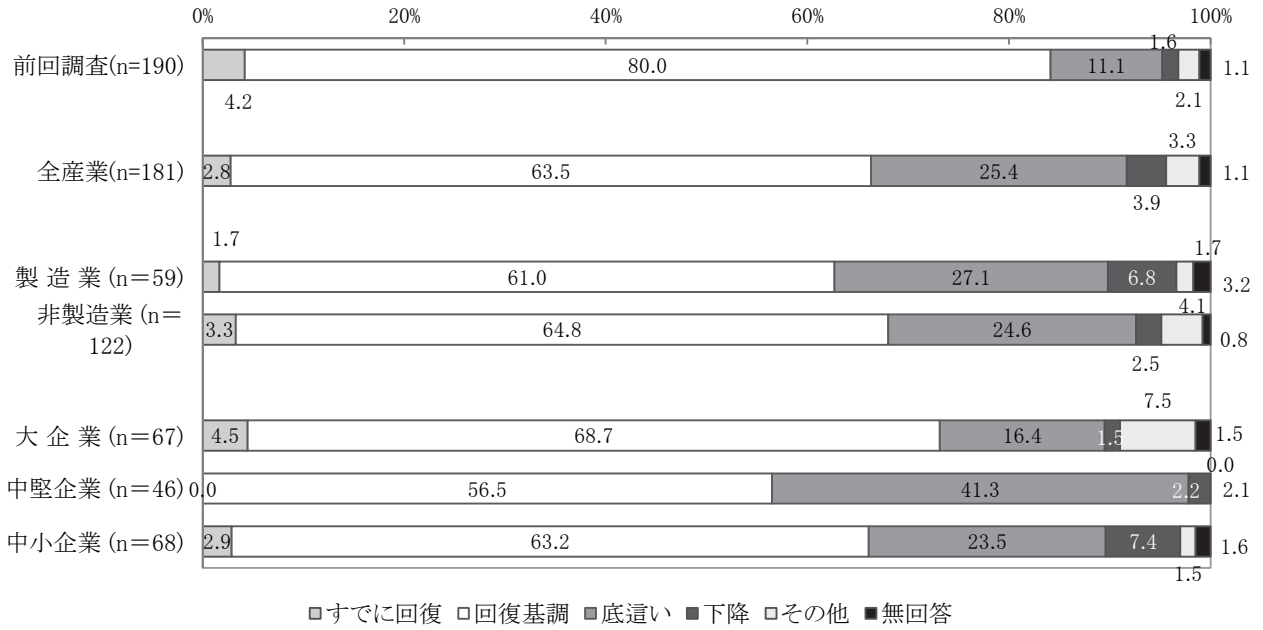
（「良い」「やや良い」） - （「悪い」「やや悪い」）社数構成比

単位：%ポイント

	前回調査		今回調査			
	25年10～3月(前期)		26年4～9月(今期)		26年10～3月(見通し)	
	景気判断BSI	景気判断BSI	変化幅	景気判断BSI	変化幅	
全産業	64.3	11.0	▲ 53.3	29.8	18.8	
業種	製造業	58.7	0.0	▲ 58.7	18.7	18.7
	非製造業	66.9	16.3	▲ 50.6	35.3	19.0
規模	大企業	65.5	22.4	▲ 43.1	43.4	21.0
	中堅企業	70.9	▲ 2.2	▲ 73.1	26.1	28.3
	中小企業	57.5	8.8	▲ 48.7	19.2	10.4

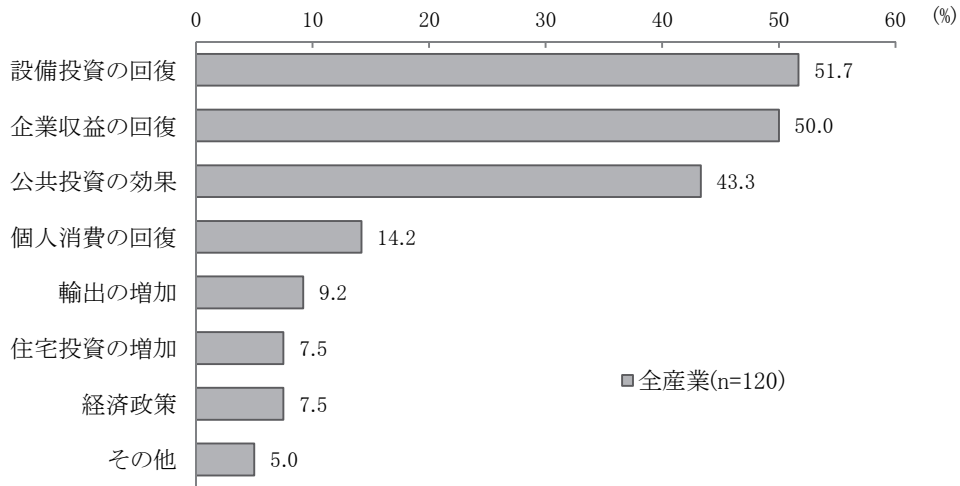
注) 26年4～9月(今期)の変化幅は25年10～3月(前期)との対比、26年10～3月(見通し)の変化幅は26年4～9月(今期)との対比。

図表3. 平成26年度上期の景気基調



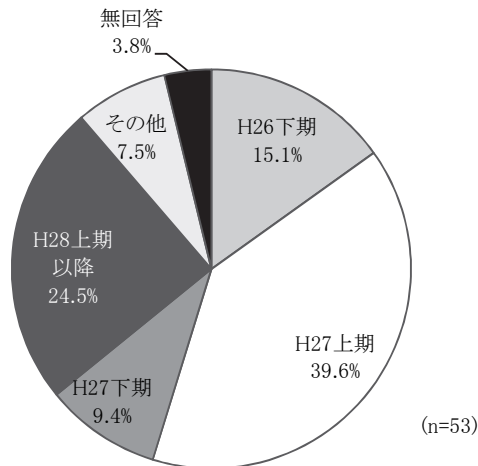
図表4. 平成26年度上期の景気が良い理由（複数回答）

景気が「すでに回復」「回復基調」と回答された企業



図表5. 北陸地域の景気が回復に転じる時期

景気が「底這い」「下降」と回答された企業



Ⅱ. 業績

足もとは悪化の傾向にあるものの、26年度下期は改善を見込む企業が増加

- ・ 26年度上期の業績について、業績判断BSI（図表6 ※）の現状判断をみると、6.1となり、「改善」「やや改善」と答えた企業が「悪化」「やや悪化」と答えた企業を上回った。ただし、前回調査（25年度下期 39.9）からは大幅に減少した。
- ・ 業種別でみると、製造業が3.4（前回27.0）、非製造業も7.3（前回46.4）と前回調査からともに減少している。規模別では、大企業が10.5（前回43.2）、中堅企業が6.4（前回31.2）、中小企業が1.6（前回42.7）と、全ての規模で前回調査からマイナスになっている。（図表6）
- ・ 来期（26年度下期）の見通しについては19.8（今期6.1）と、改善を見込む企業が増加している。業種別でみると、製造業が13.6（今期3.4）、非製造業が23.0（今期7.3）と、特に非製造業で、改善を見込む企業が悪化を見込む企業を上回っている。規模別でも、いずれも改善を見込む企業が増加している。（図表6）
- ・ 現在の業績水準については、「大変良い」「良い」とみている企業が31.0%（前回36.3%）、「悪い」「大変悪い」とみている企業が19.3%（前回18.4%）となっており、前回とほぼ同様の傾向となっている。（図表7）
- ・ 経営上の課題では、「人材養成・確保」（72.9%）が最も多く、次いで「国内販売力の強化」（53.6%）となっている。業種別でみると、製造業では「人材養成・確保」（57.6%）、「国内販売力の強化」（55.9%）に次いで、「新商品開発」（45.8%）を挙げる企業が多い結果となった。非製造業においても、「人材養成・確保」（80.3%）、「国内販売力の強化」（52.5%）を課題とみる企業が多くなっている。（図表8）

図表6. 平成26年度上期の業績判断と見通し

※業績判断BSI

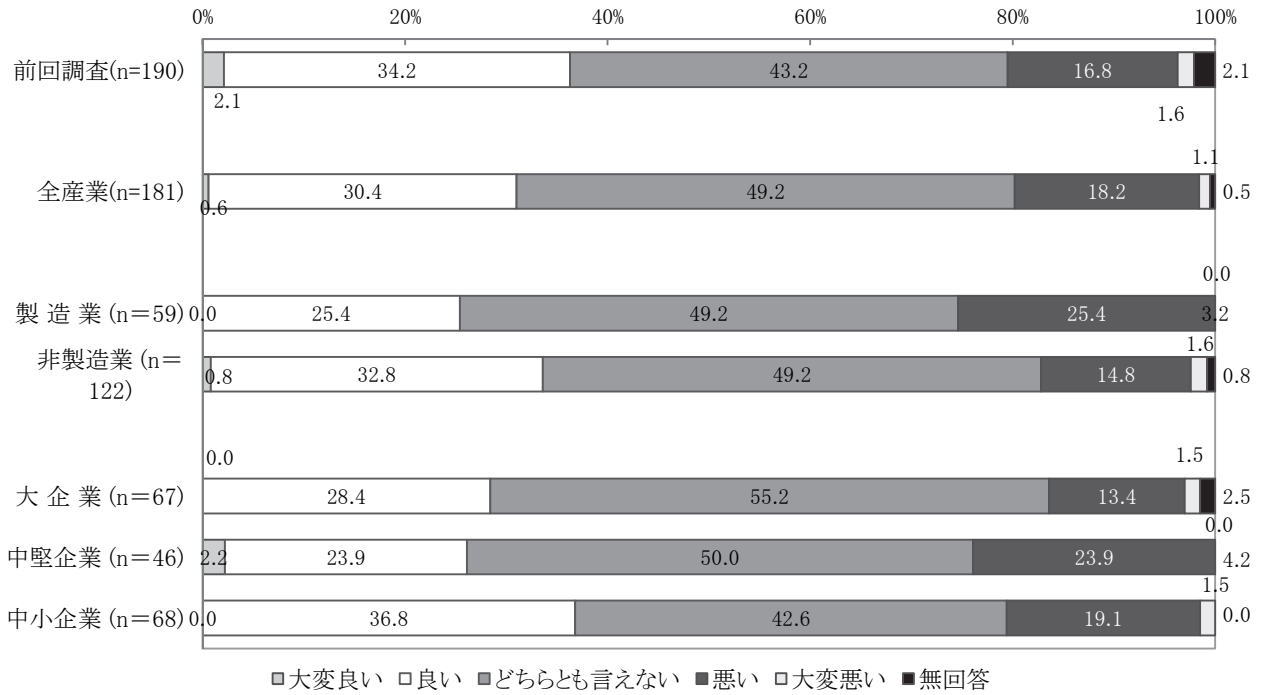
（「改善」「やや改善」） - （「悪化」「やや悪化」）社数構成比

単位:%ポイント

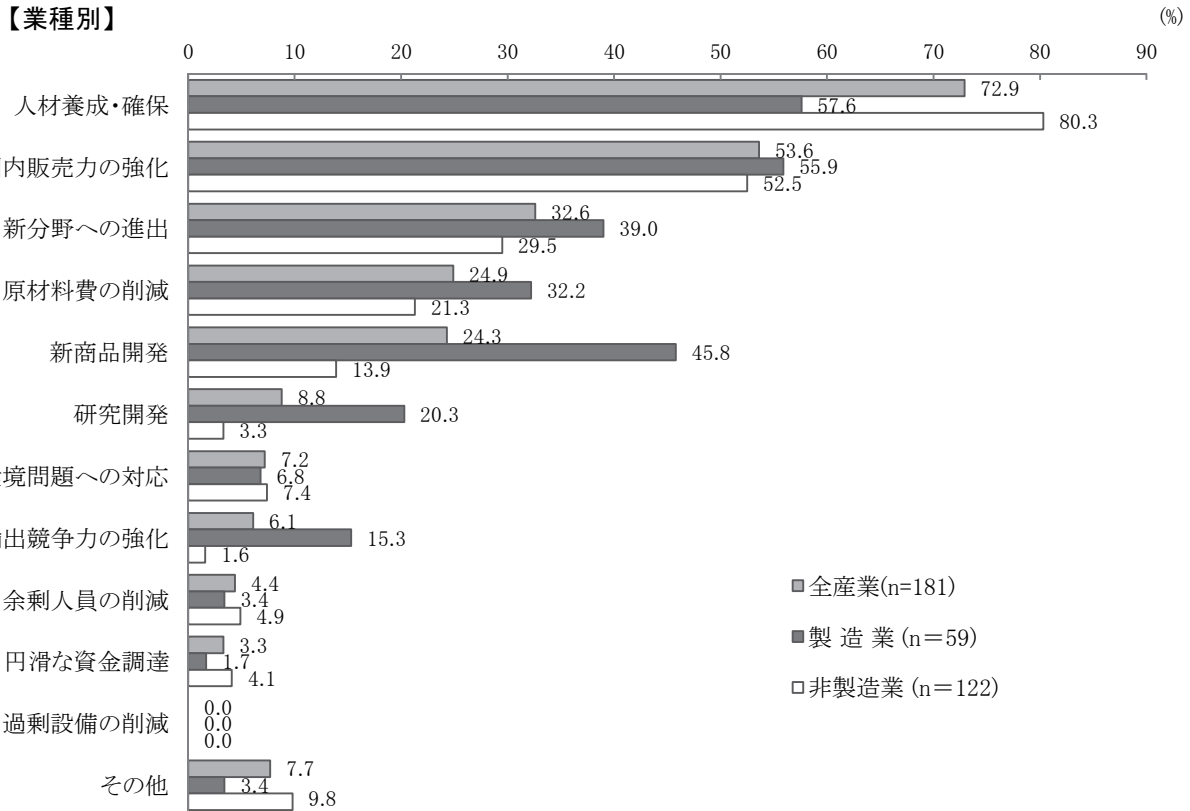
		前回調査		今回調査			
		25年10～3月(前期)		26年4～9月(今期)		26年10～3月(見通し)	
		業績判断BSI		業績判断BSI	変化幅	業績判断BSI	変化幅
	全産業	39.9	6.1	▲ 33.8		19.8	13.7
業種	製造業	27.0	3.4	▲ 23.6		13.6	10.2
	非製造業	46.4	7.3	▲ 39.1		23.0	15.7
規模	大企業	43.2	10.5	▲ 32.7		29.8	19.3
	中堅企業	31.2	6.4	▲ 24.8		6.7	0.3
	中小企業	42.7	1.6	▲ 41.1		19.1	17.5

注) 26年4～9月(今期)の変化幅は25年10～3月(前期)との対比、26年10～3月(見通し)の変化幅は26年4～9月(今期)との対比。

図表7. 現在の業績水準



図表8. 経営上の課題（3つまで回答）

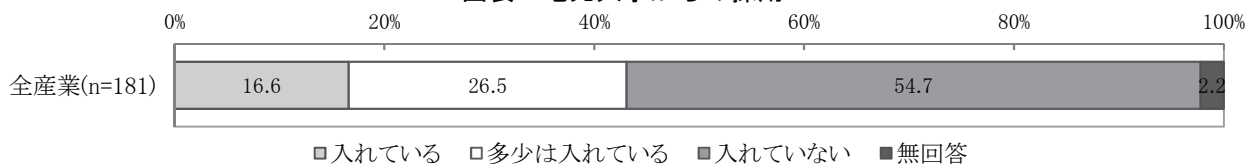


Ⅲ. その他

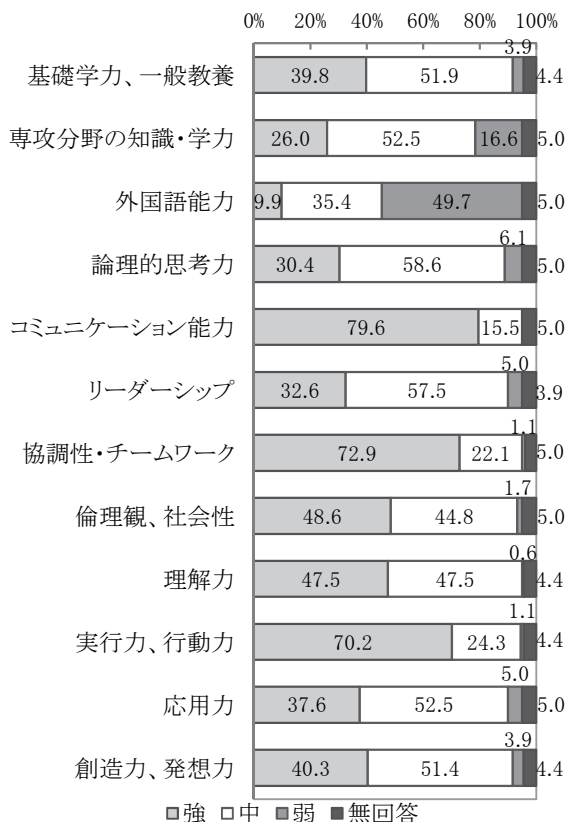
1. 産業人材の育成・活用について

- ・採用に際し地元大学であることを考慮に入れているかについては54.7%の企業が「入っていない」と答えている。(図表9)
- ・地元大学であるメリットとしては、「定着率」「経費面」「地元大学との関係」「地域密着性」「人的ネットワーク」などを挙げている。(参考頁19.20)
- ・採用する際重視する能力としては、「コミュニケーション能力」「協調性・チームワーク」「実行力・行動力」の順となった。(図表10)
- ・最近の学生及び若年労働者の能力変化については、「コミュニケーション能力」「リーダーシップ」「実行力、行動力」で低下とする回答が多かった。逆に外国語能力については向上したとの回答が多かった。(図表11)
- ・大学の学校教育で培っておくことが期待される能力は、文系では「コミュニケーション能力」(72.9%)が一番多く、次いで「実行力・行動力」(58.6%)「協調性・チームワーク」(56.4%)と続き、採用する際重視する能力と同様な結果となった。(図表12)
理系については「専攻分野の知識・学力」(62.4%)が一番多く、次いで「創造力、発想力」(59.7%)「コミュニケーション能力」(57.5%)となり、文系とは大きく異なった結果となった。(図表12)

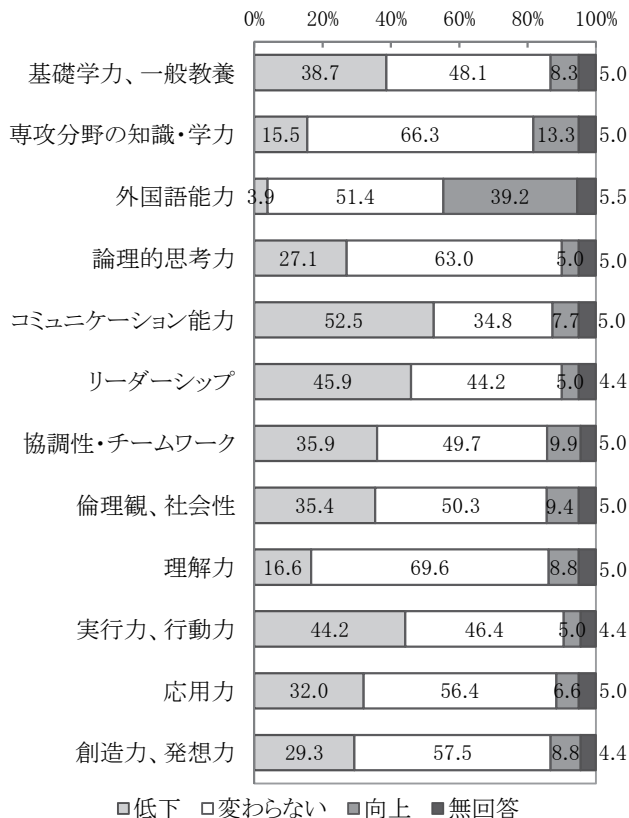
図表9. 地元大学からの採用



図表10. 採用の際重視する能力 (%)

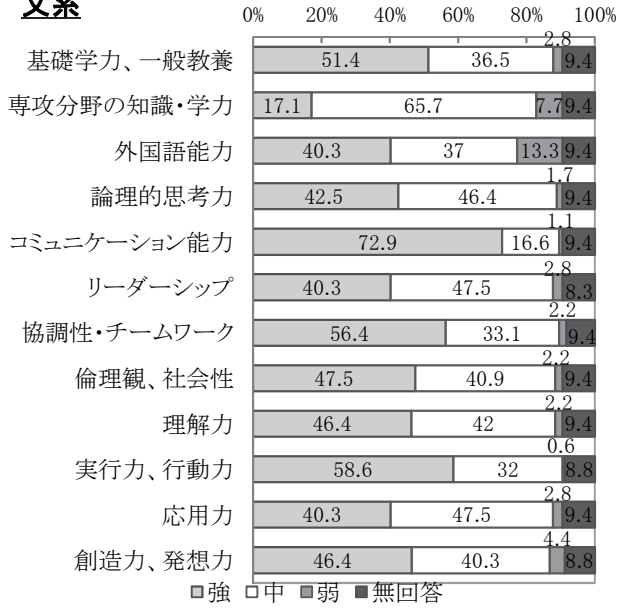


図表11. 学生及び若年労働者の能力変化 (%)

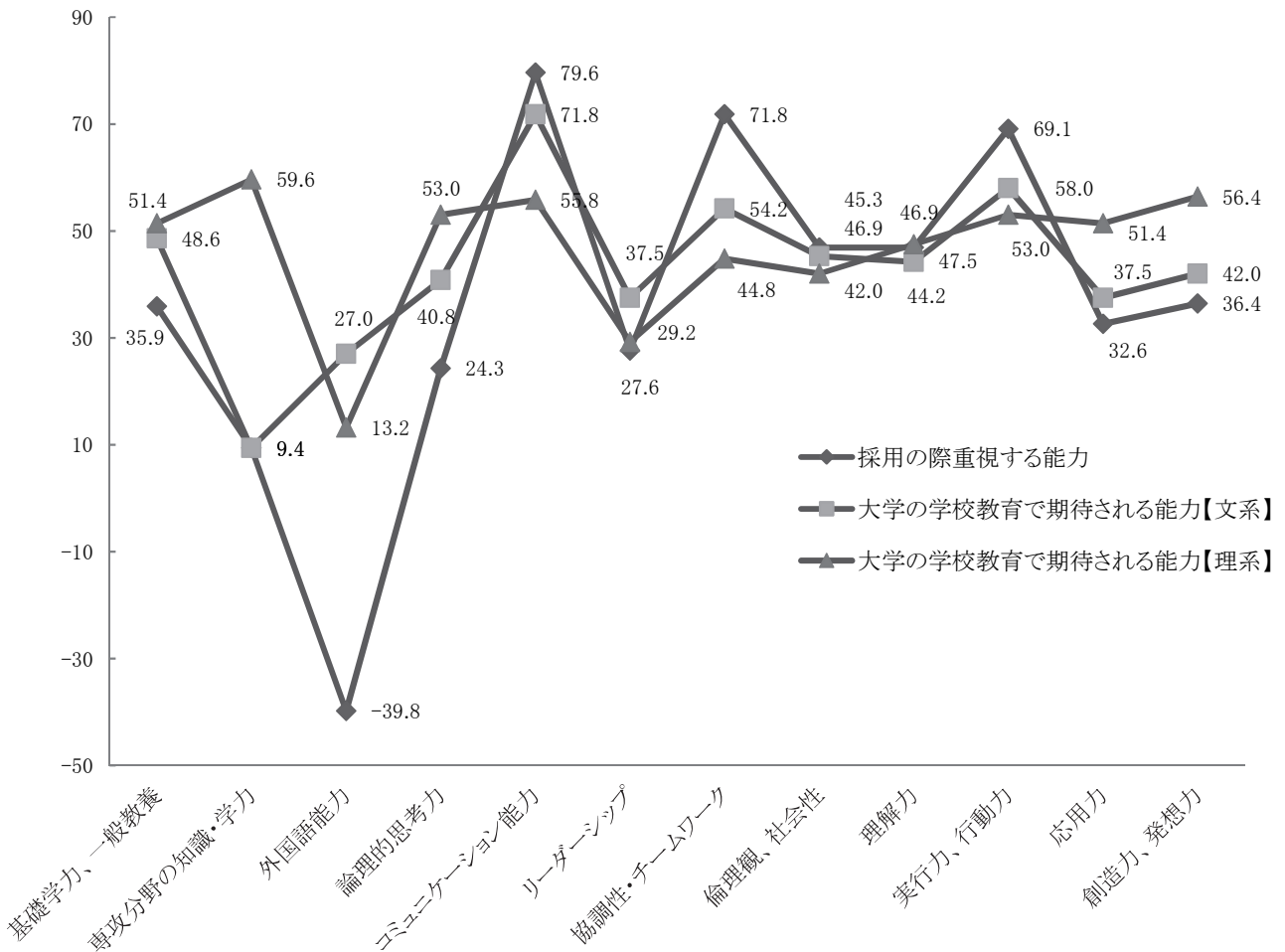
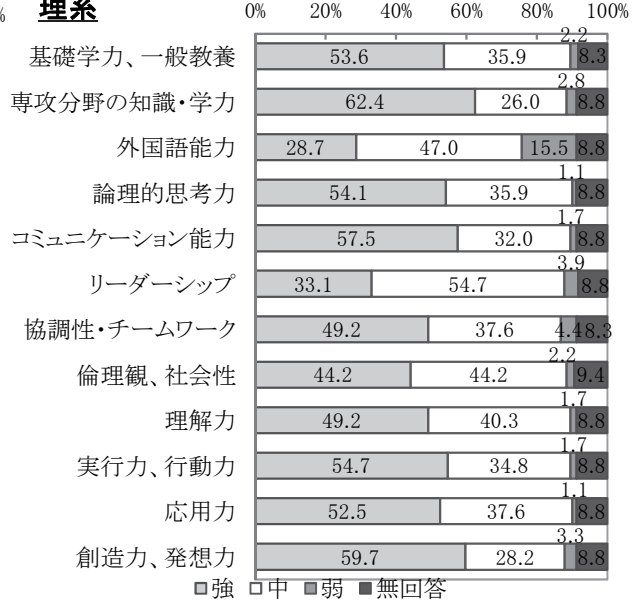


図表12.大学の学校教育で培っておくべき能力と採用の際重視する能力の比較

文系



理系



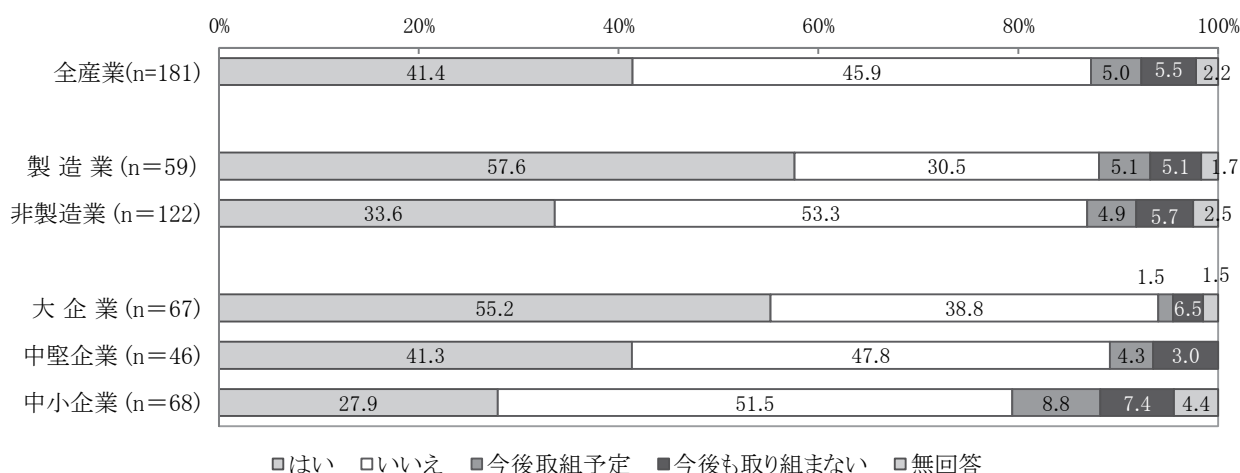
※「強」の比率から「弱」の比率を引いた指数での比較

Ⅲ. その他

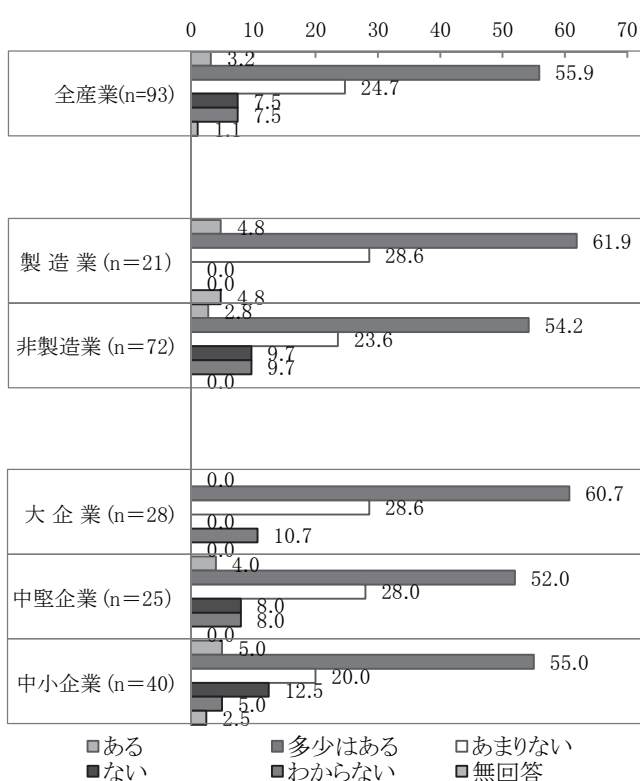
2. 産学連携の取り組みについて

- ・『産学連携』への取り組みは、全産業では41.4%で実績があり、業種別では製造業で57.6%と非製造業の33.6%を上回っている。規模別でみると中小企業（27.9%）に比べ大企業（55.2%）、中堅企業（41.3%）で取り組みが進んでいる。（図表13.）
- ・具体的取り組み内容としては、共同研究が最も多く、インターンシップ、講師派遣、ドネーション（寄付・寄贈）などがあった。（参考頁26.27）
- ・『産学連携』への興味については、業種・規模に拘わらず6割が「ある」「多少はある」と回答している。（図表14.）
- ・『産学連携』に求めるものは、「人材育成」（55.2%）「共同研究」（50.3%）「ビジネスマッチング」（40.3%）の順であり、業種別で見ると製造業で共同研究を期待する声が74.6%と大きい。（図表15.）

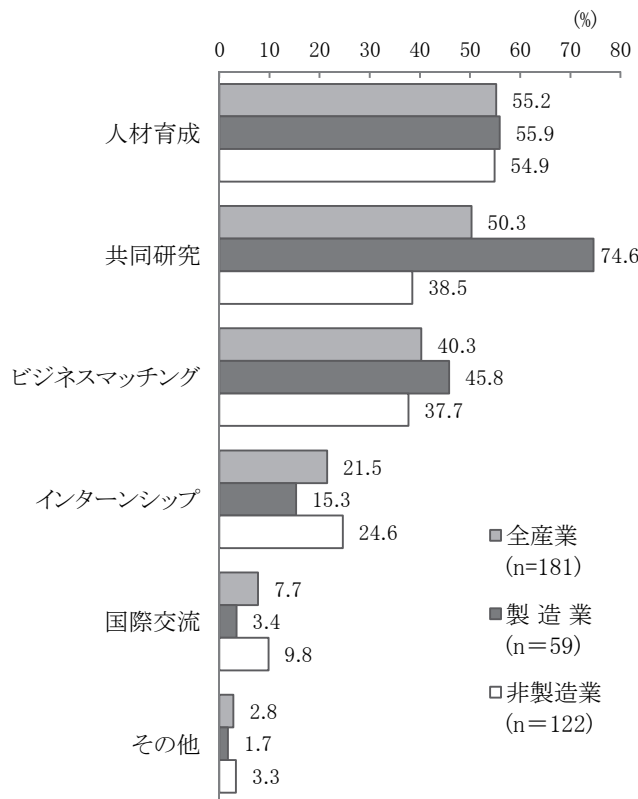
図表13. 『産学連携』への取り組み



図表14. 産学連携への興味
(複数回答)



図表15. 『産学連携』に求めるもの
(複数回答)

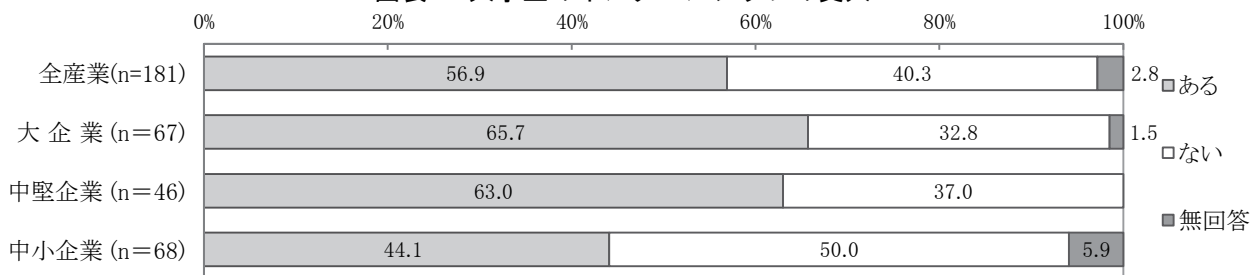


Ⅲ. その他

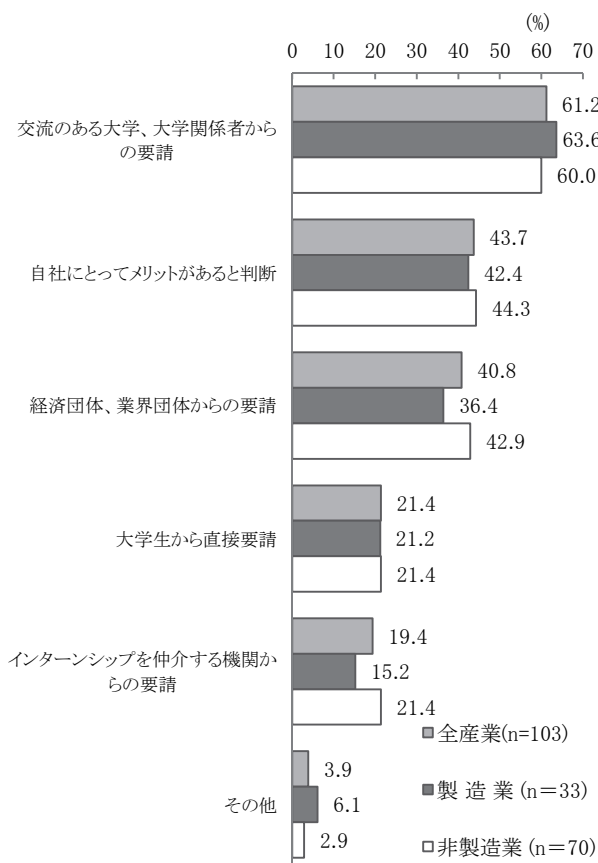
3. 大学生のインターンシップについて

- ・ 大学生のインターンシップの受け入れについては6割の企業に経験があり、規模別に見ると大企業(65.7%)、中堅企業(63.0%)に比べ中小企業では44.1%と低下する。(図表16.)
- ・ 受け入れたきっかけとしては、「大学からの要請」(61.2%)「自社のメリット」(43.7%)、「経済団体、業界団体からの要請」(40.8%)の順となっている。(図表17.)
- ・ 受け入れている目的については、順に「社会貢献活動」「交流ある大学との関係保持」で「主な目的」「目的」との回答があり、ついで「業界の広報活動」の順となった。(図表18.)
- ・ インターンシップを受け入れたことのない主な理由では「社内の受け入れ環境が整わない」が54.8%と最大となっており、どのような条件が整えば受け入れることが可能になるかとの問いには「有効なインターンシッププログラムがあれば」等の回答があった。(参考頁31)

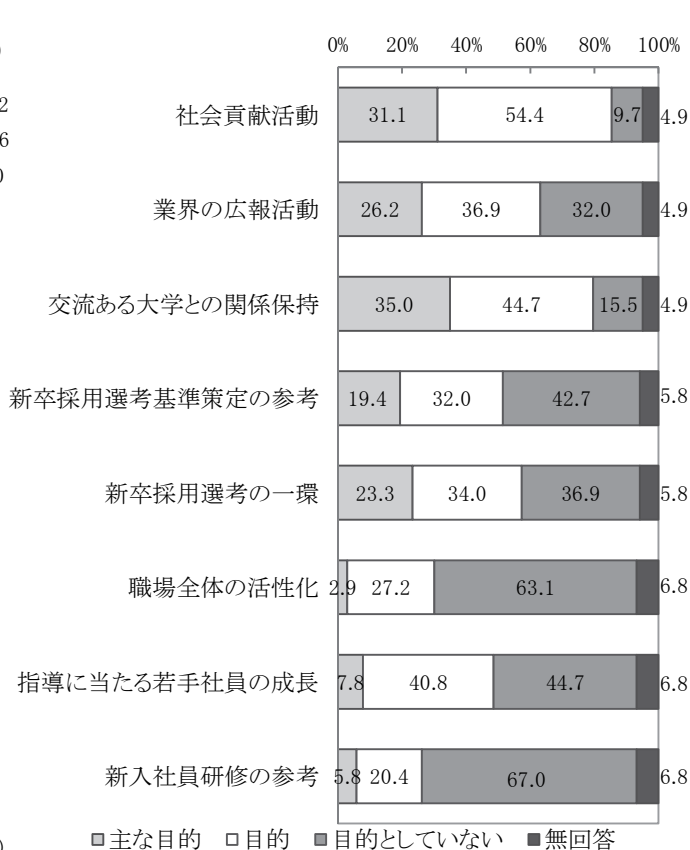
図表16. 大学生のインターンシップの受入



図表17. 受け入れたきっかけ(複数回答可)



図表18. 受け入れている目的(複数回答可)

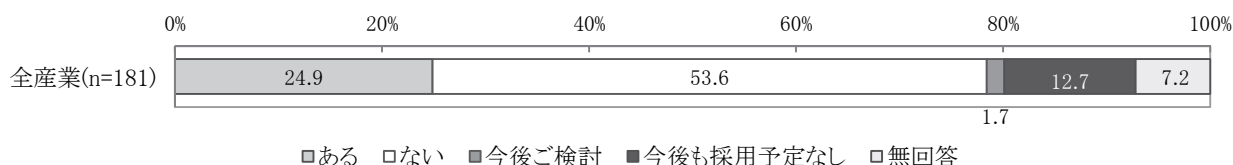


Ⅲ. その他

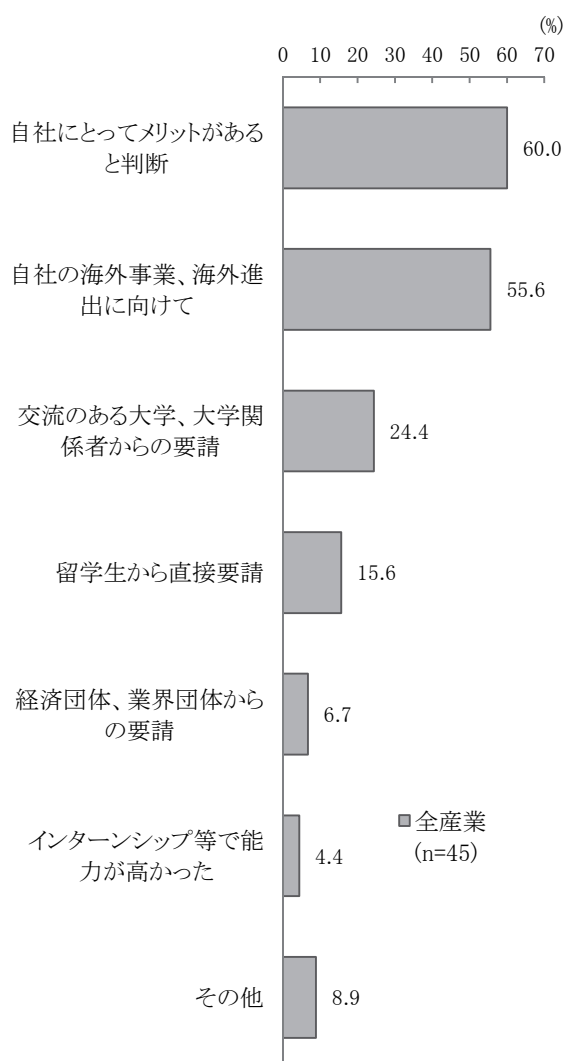
4. 外国人留学生の活用について

- ・ 外国人留学生の採用については、24.9%の企業で「ある」と答えている。(図表19.)
- ・ 採用したきっかけとしては「自社にとってメリットがある」(60.0%)「自社の海外事業進出に向けて」(55.6%)が多く、ついで「交流ある大学、大学関係者から要請」(24.4%)となった。(図表20.)
- ・ 採用したことの無い理由については、「受け入れ環境が整わない」(47.2%)「活躍できる職種がない」(43.1%)「社内で検討したことがない」(40.7%)の順となった。(図表21.)
- ・ どのような条件が整えば採用することができるのかの問いに対しては、業種的にそぐわないとの回答が多いなか、「日本語能力」「海外取引の拡大」等の回答があった。(参考頁35)

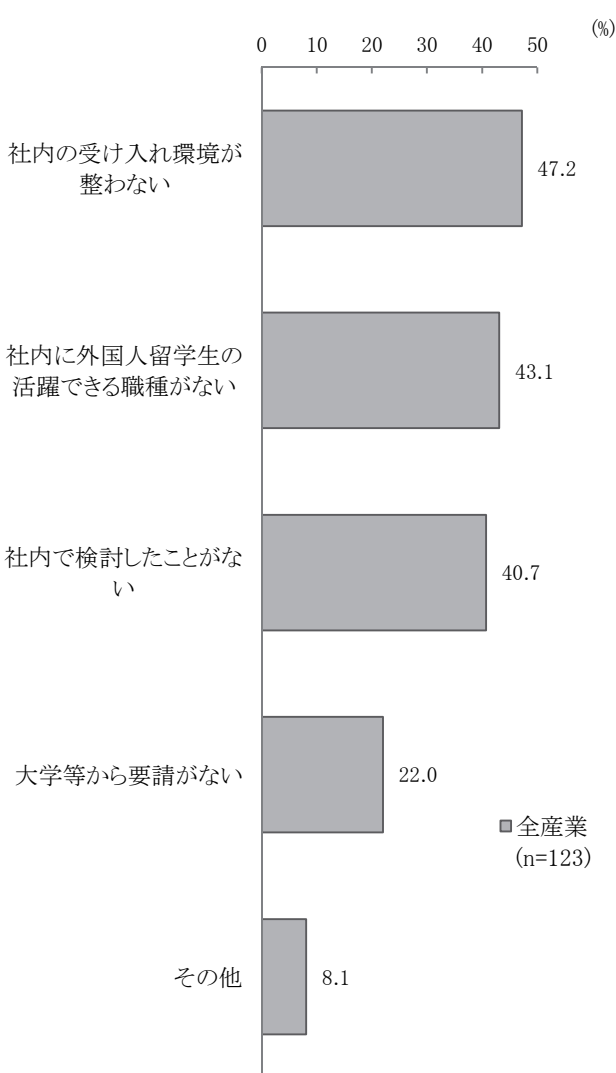
図表19. 外国人留学生の採用



図表20. 採用したきっかけ



図表21. 採用したことの無い理由

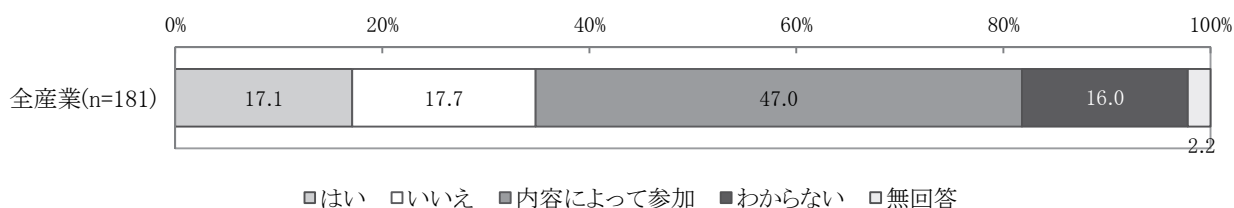


Ⅲ. その他

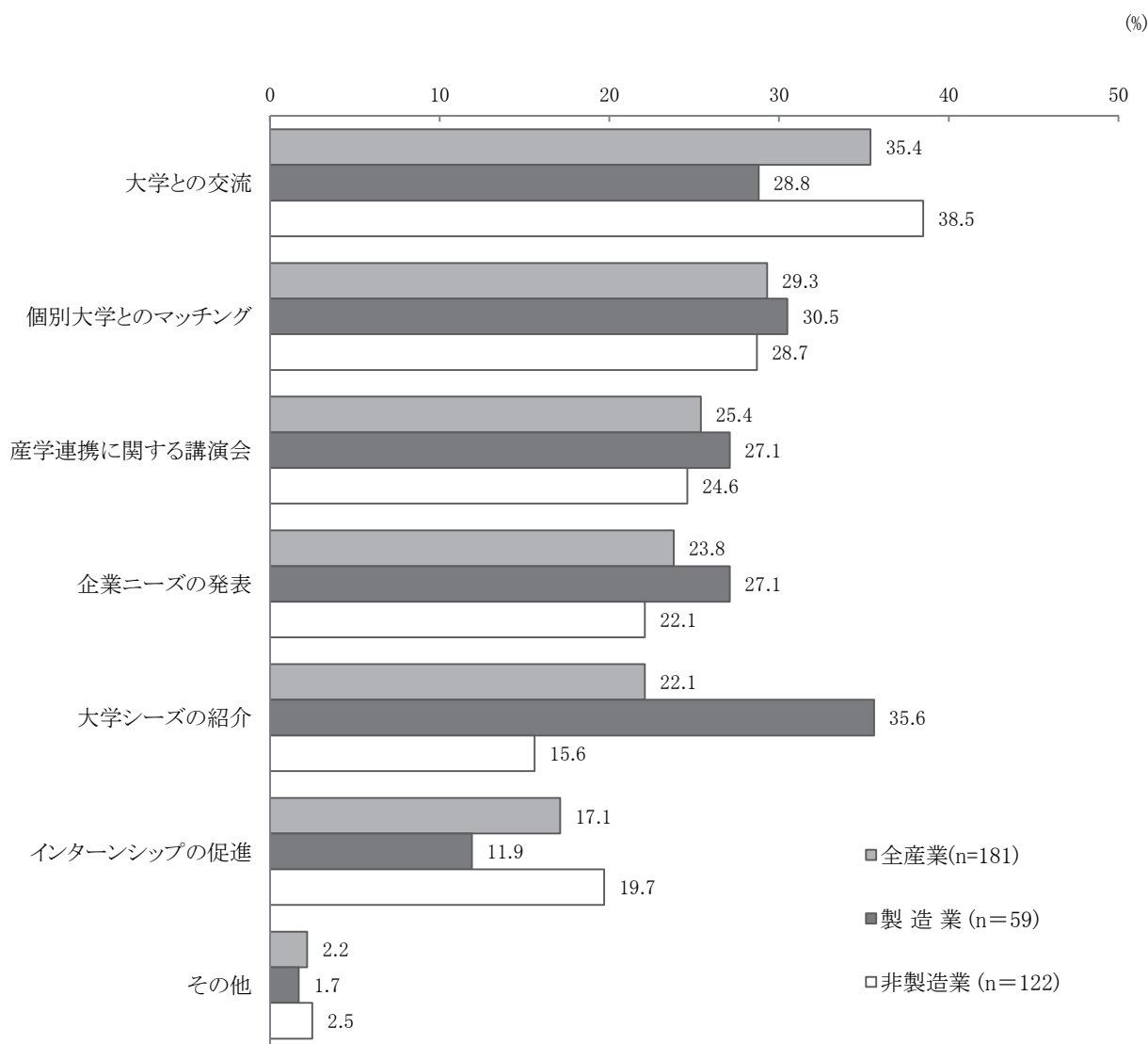
5. 産学連携交流会について

- ・「産学連携交流会」参加については、64.1%が「はい」「内容によって参加」と回答している。（図表22.）
- ・「産学連携交流会」に期待することについては、「大学との交流」「個別大学とのマッチング」「産学連携に関する講演会」「企業ニーズの発表」「大学シーズの紹介」の順となった。業種別で見ると製造業で「大学シーズの紹介」を求める声が35.6%と多くあった。（図表23.）
- ・産学連携交流会の今後のテーマとしては、「人材育成」の声が多く、その他「インターンシップの活用事例」「ビジネスマッチング」「異文化交流」「国際交流」「地域社会の課題」「学生のアイデア」等の意見があった。（参考頁38）

図表22. 産学連携交流会への参加



図表23. 産学連携交流会へ期待すること

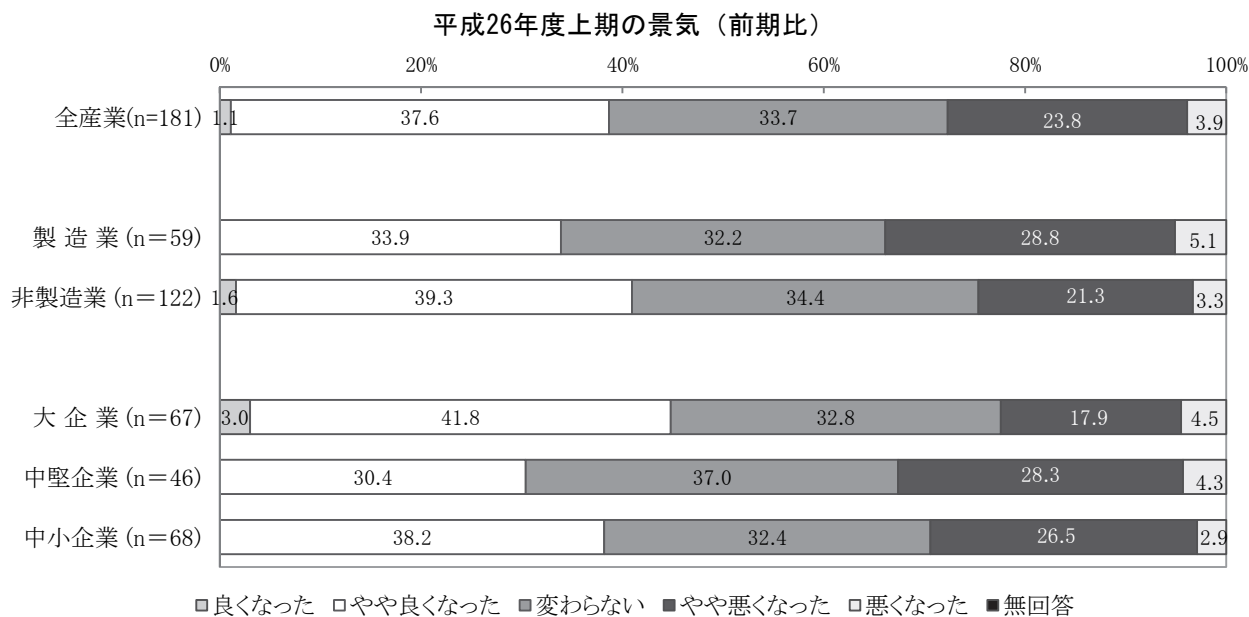


参考(アンケート調査結果)

I 景気動向

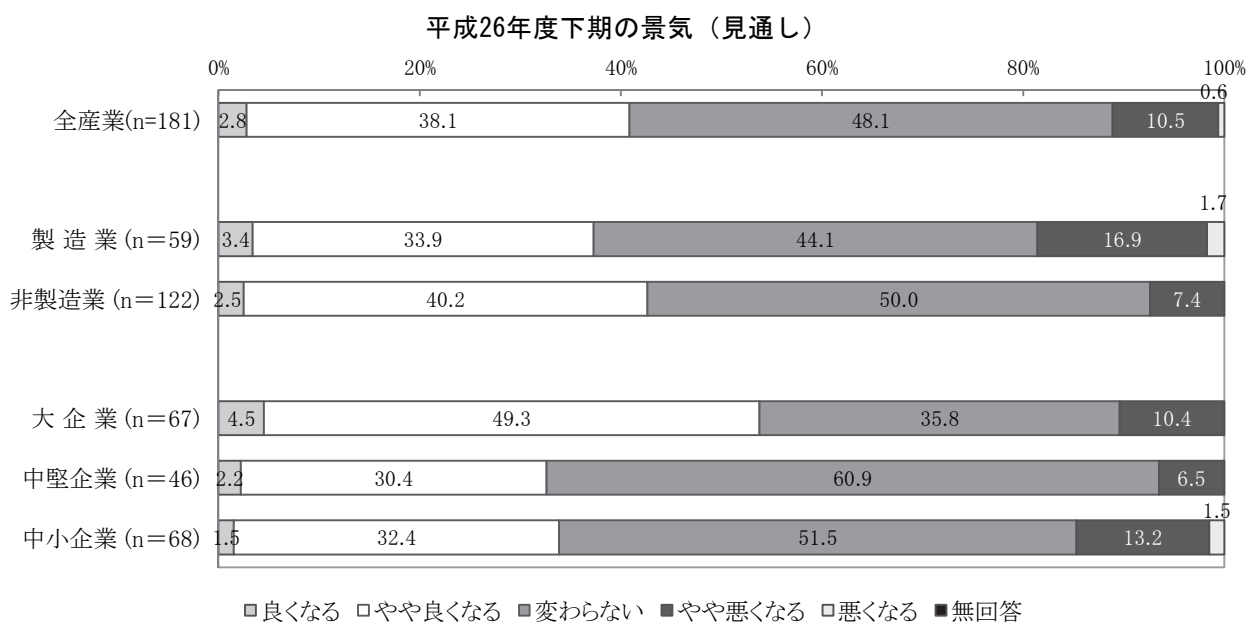
Q.1

北陸地域の平成26年度上期(4月～9月)の景気は平成25年度下期(10月～3月)に比べどのように変化したと思われますか。(季節的要因を除外してお答え下さい。)



Q.2

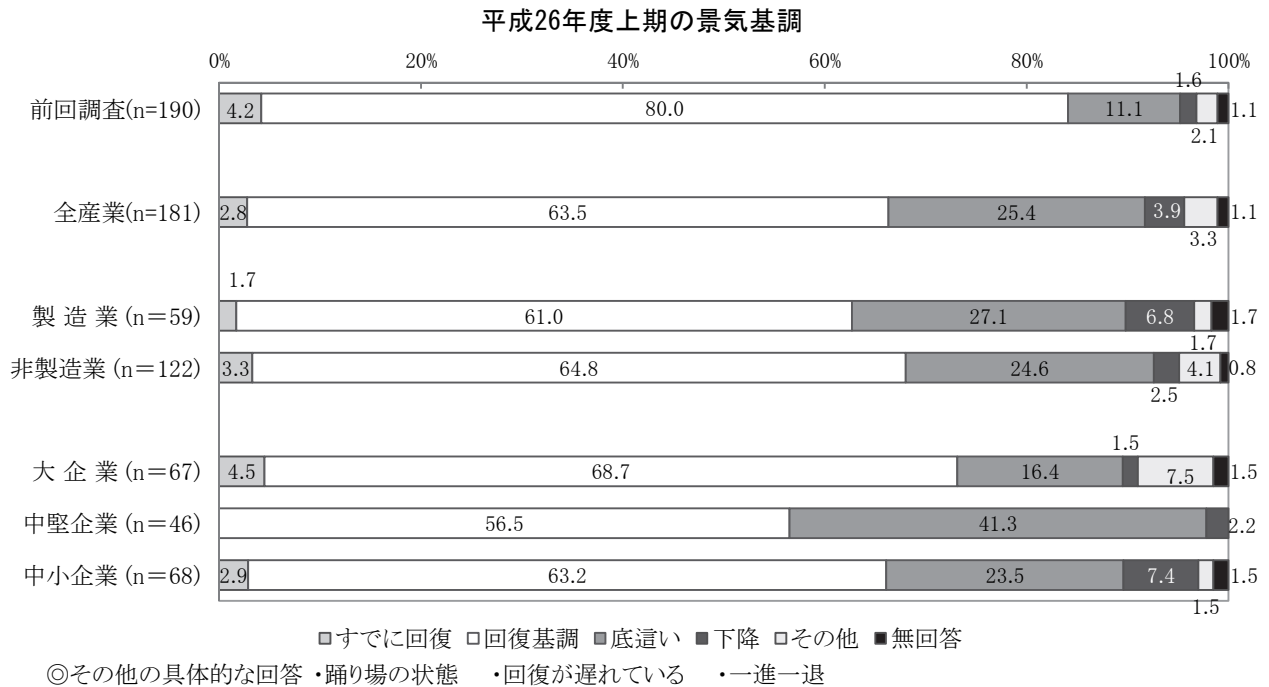
北陸地域の平成26年度下期(10月～3月)の景気は平成26年度上期(4月～9月)に比べどのように変化すると思われますか。(季節的要因を除外してお答え下さい。)



I 景気動向

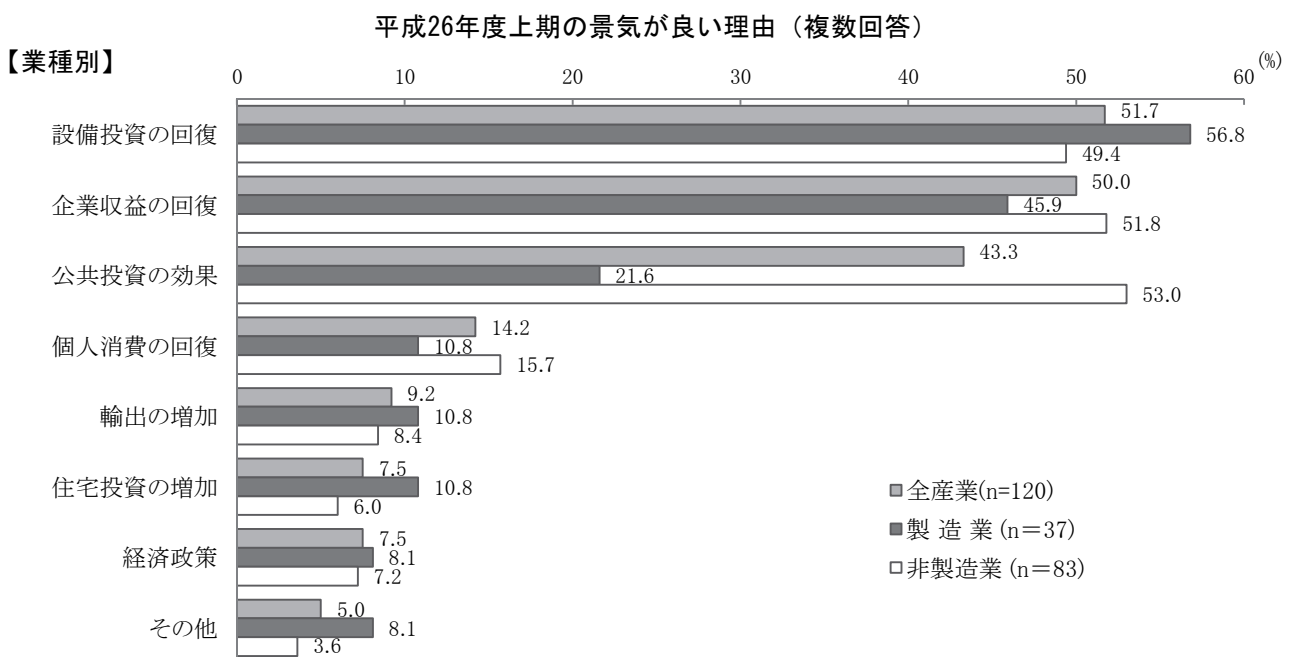
Q.3

平成26年度上期(4月～9月)の北陸地域の景気は基調として以下のどの局面にあると判断されていますか。



Q.4

Q.3で「すでに回復」「回復基調」と回答された方へ
平成26年度上期(4月～9月)の景気が良いのは何によるものだと思いますか。(複数回答可)



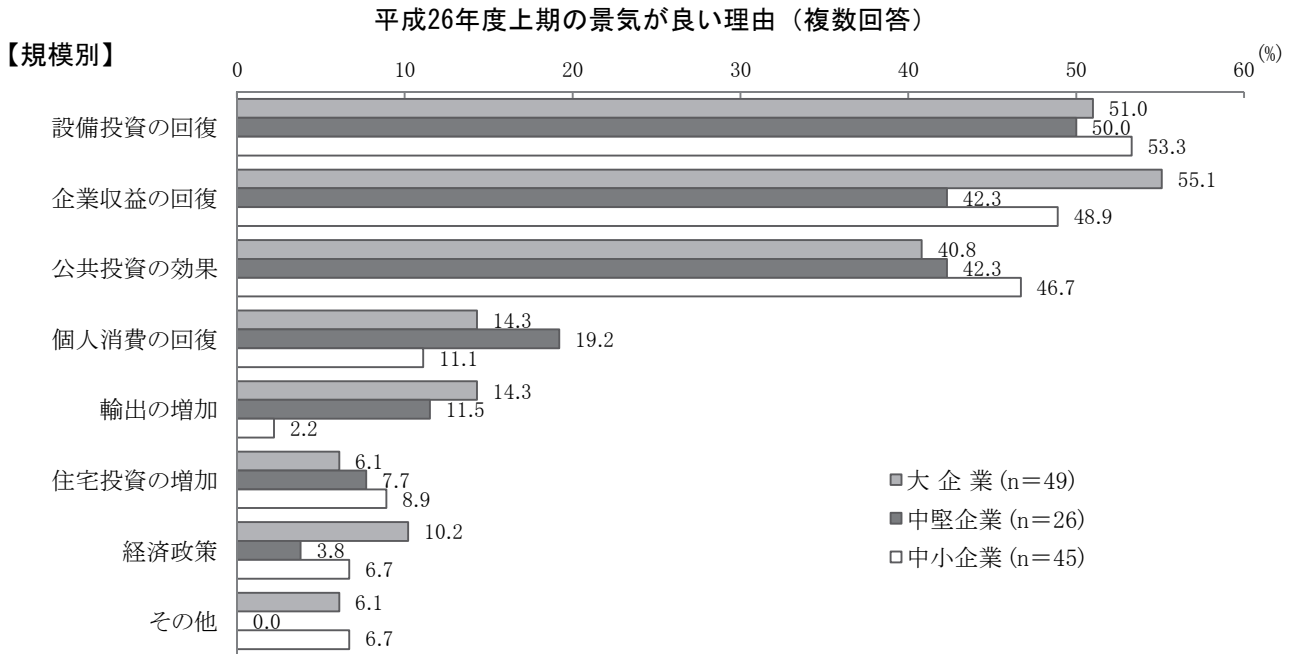
◎経済政策の具体的な回答
・アベノミクス効果

◎その他の具体的な回答
・北陸新幹線関連
・ジェネリックの需要が旺盛

I 景気動向

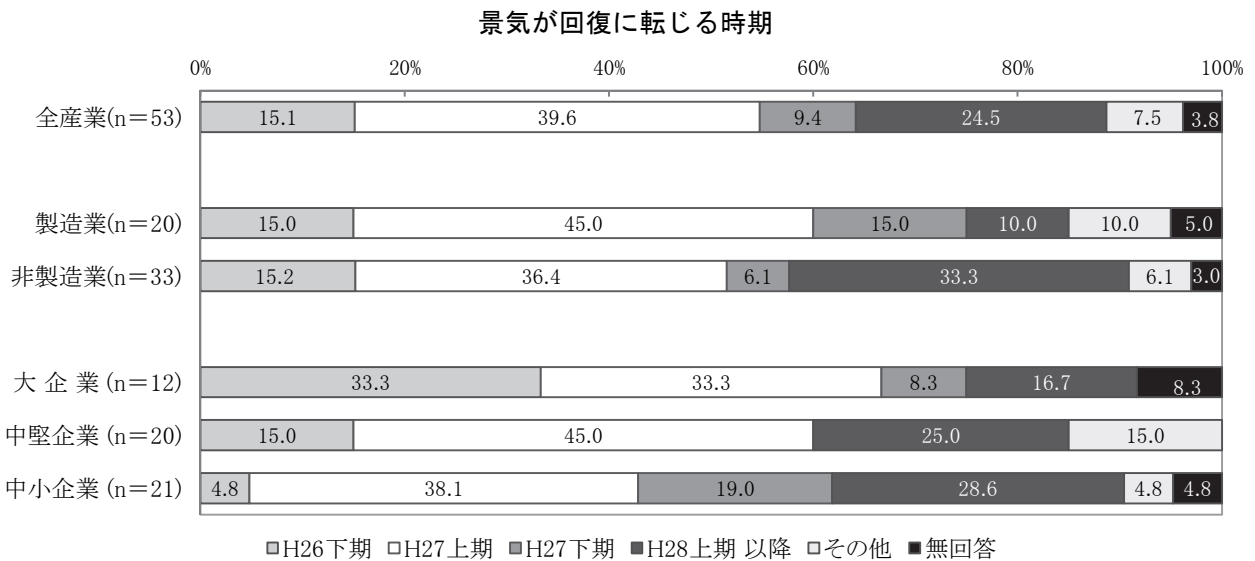
Q.4

Q.3で「すでに回復」「回復基調」と回答された方へ
 平成26年度上期(4月～9月)の景気が良いのは何によるものだと思いますか。(複数回答可)



Q.5

Q.3で「底這い」「下降」と回答された方へ
 北陸地域の景気が今後回復に転じると予想される時期はいつ頃と思われますか。



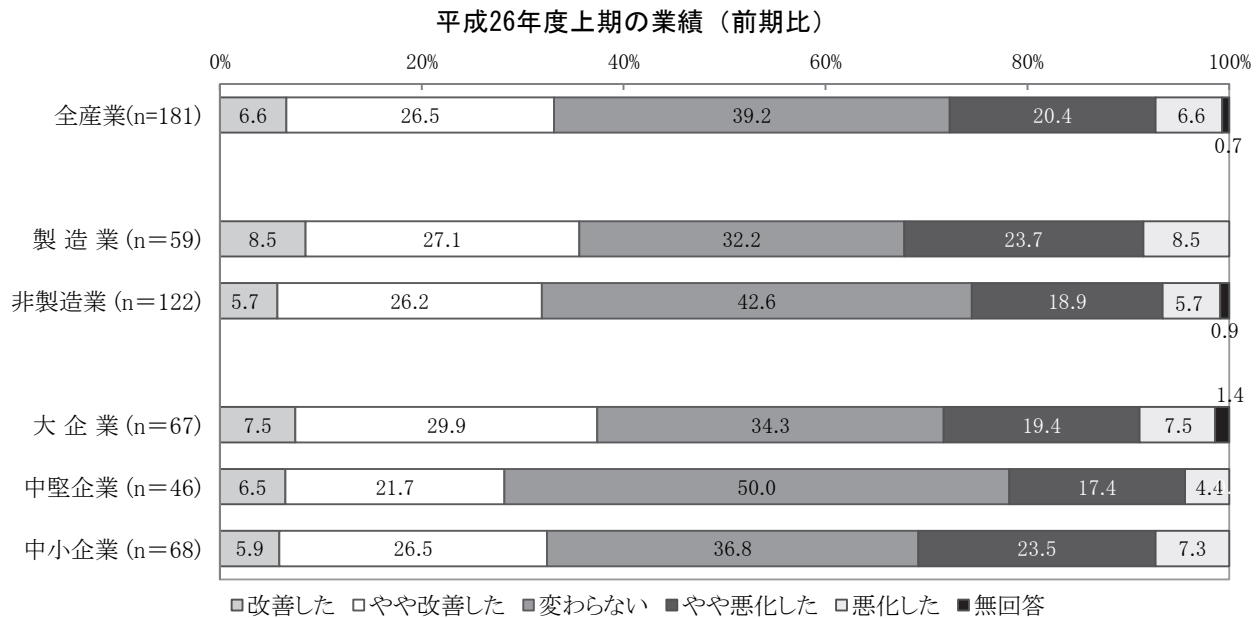
◎その他の具体的な回答

- ・北陸新幹線開業以降に期待
- ・適正な円相場時点

II 業績

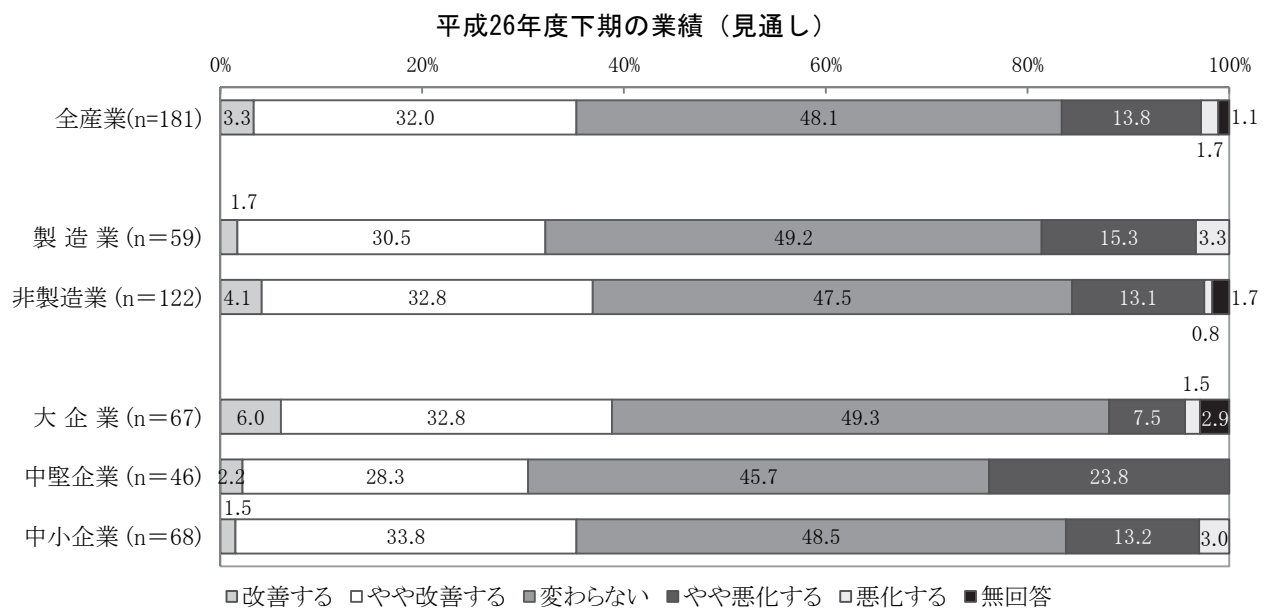
Q.1

貴社の平成26年度上期(4月～9月)の業績は、平成25年度下期(10月～3月)に比べてどのように変化しましたか。(季節的要因を除外してお答え下さい。)



Q.2

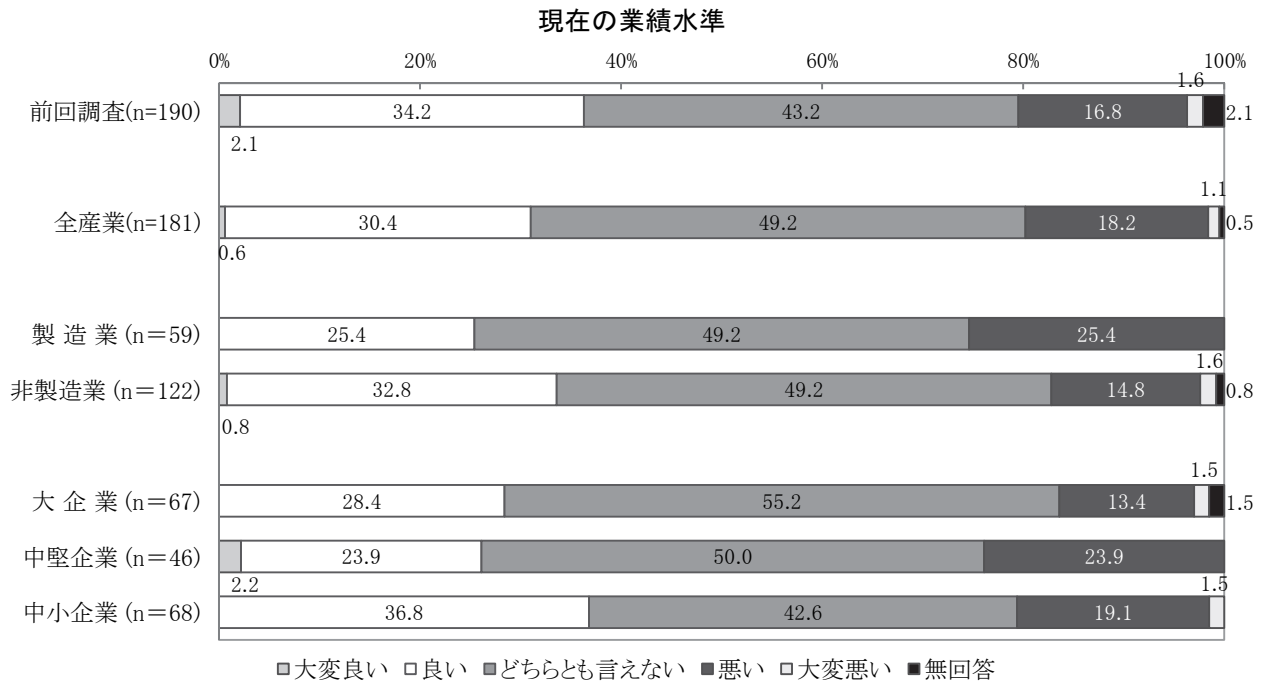
貴社の平成26年度下期(10月～3月)の業績は、平成26年度上期(4月～9月)に比べてどのように変化すると思われますか。(季節的要因を除外してお答え下さい。)



II 業績

Q.3

現在の貴社の業績水準についてどう思われますか。



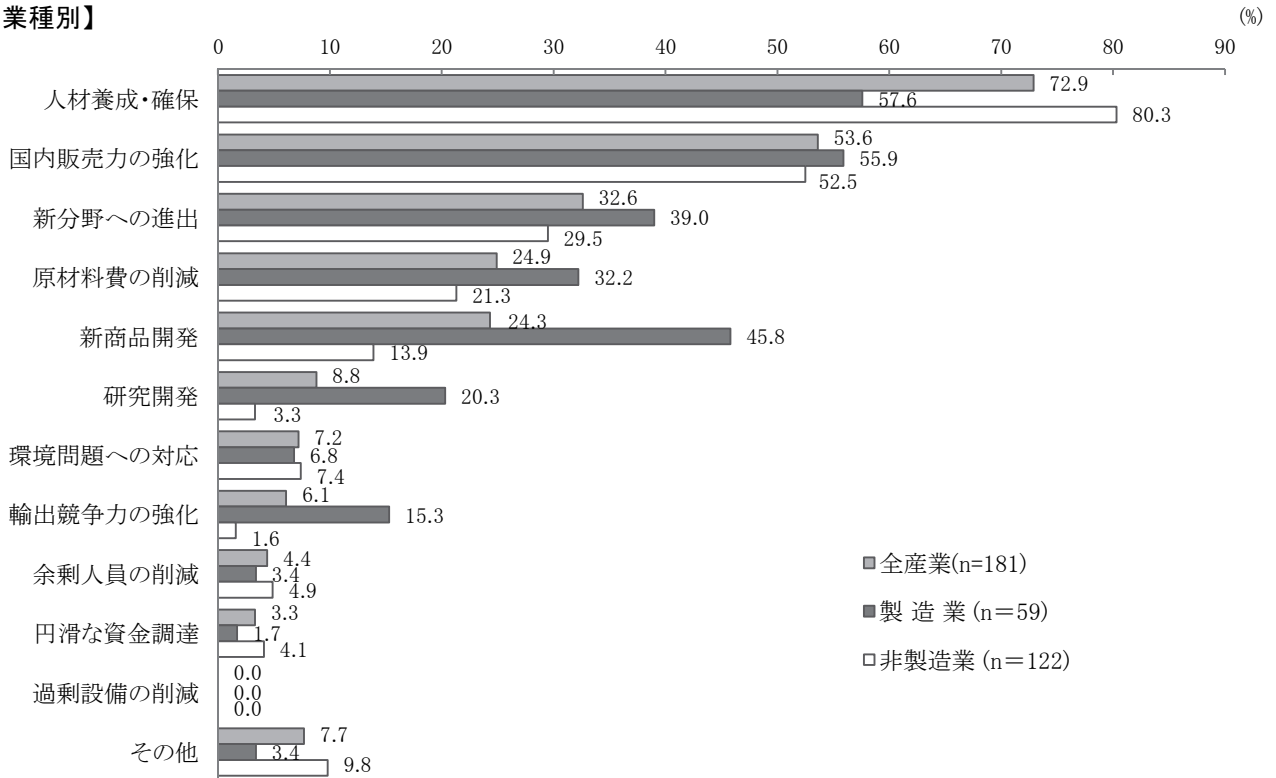
II 業績

Q.4

貴社にとっての経営上の課題は、どのような点でしょうか。(3つまで回答可)

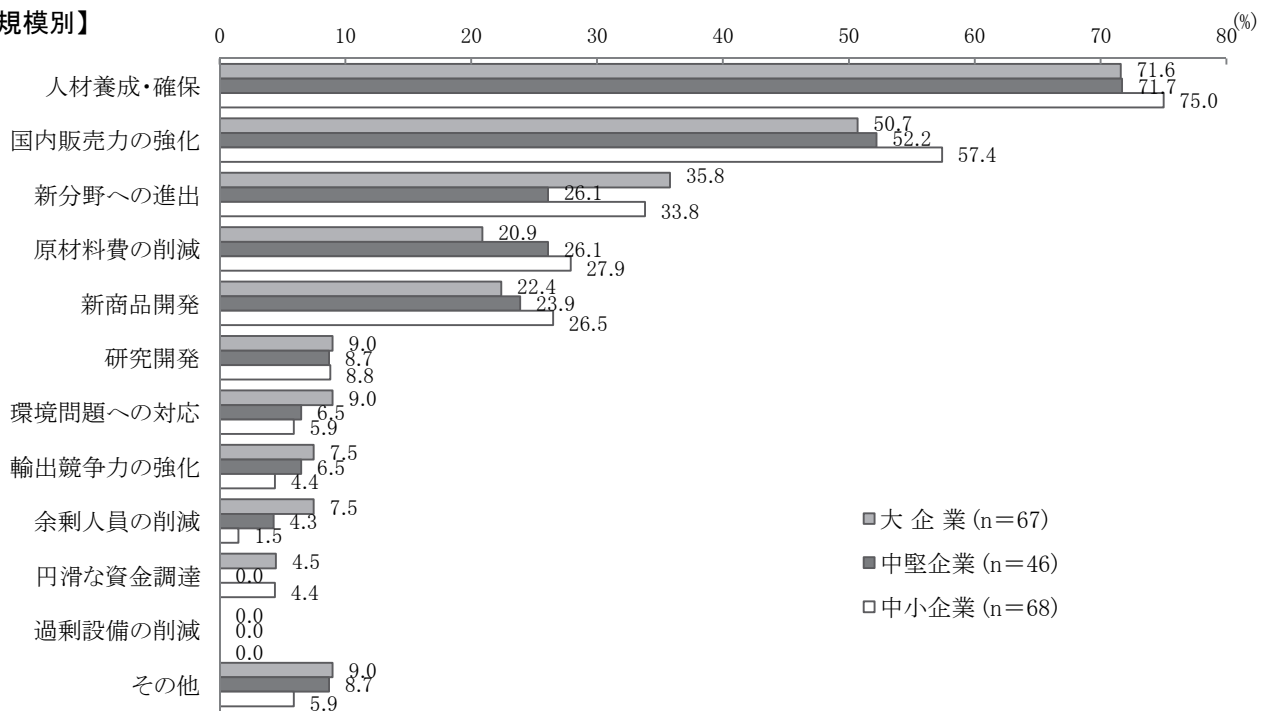
経営上の課題 (3つまで回答)

【業種別】



経営上の課題 (3つまで回答)

【規模別】



◎その他の具体的な回答

・設備の更新・維持・管理

・新興国(中国・インド等)の経済動向、金融動向

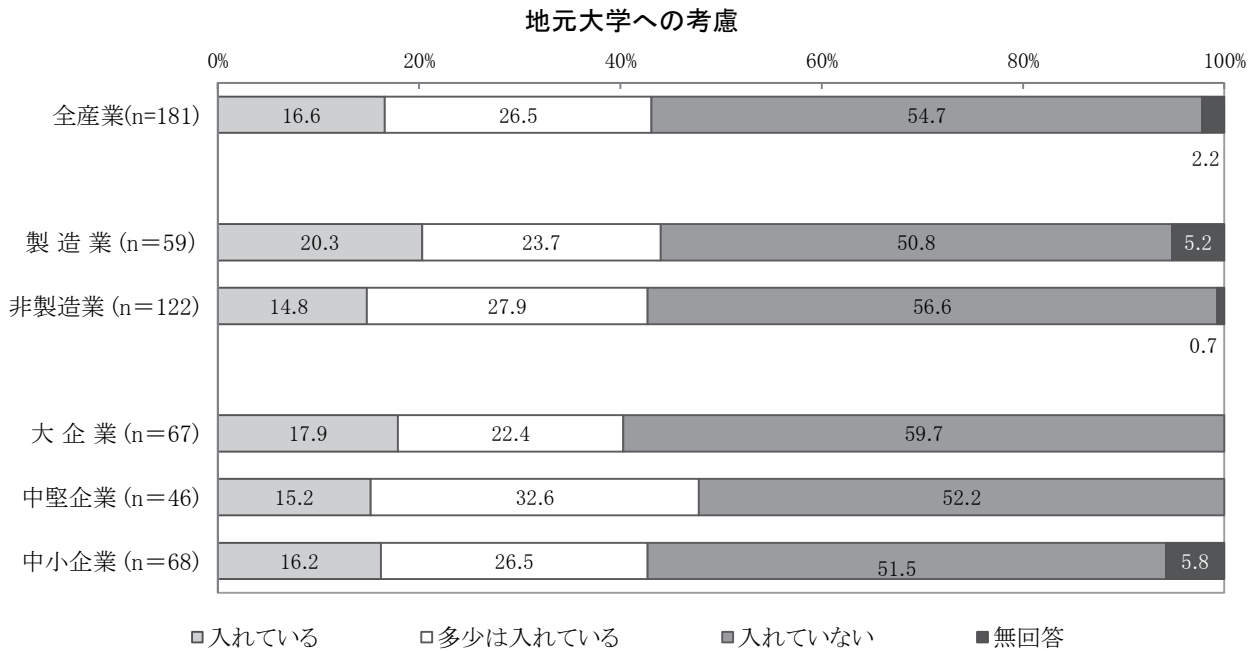


その他（1. 産業人材の育成・活用）

1. 産業人材の育成・活用についてお聞かせください

Q.1

採用の際、地元大学であることを考慮に入れていますか



Q.2

Q.1で「入れている」「多少は入れている」と回答された方へ
 地元大学であるメリットはどのようなところにありますか。(自由記述)

1. 定着率

- 定着率が高い(ほか同様意見7)
- 県外出身者はやめる可能性あり
- 地元志向が強い
- 内定辞退率が低い
- 地元社会になじみがある
- 地元事情の理解
- 当社に対する基礎知識がある(ほか同様意見1)
- 当社の業務内容などを理解しており、ミスマッチが少ない
- 継続的な採用をしやすい
- 地元出身者が多い(ほか同様意見1)
- 地域への思い入れが強い
- 通勤が便利

2. 経費面

諸経費が、本人、企業ともに少ない(ほか同様意見1)
自宅からの通勤となるため寮・社宅が不要(ほか同様意見2)
安定した食生活

3. 地元大学との関係

継続採用することで、優秀な人材を確保可能(ほか同様意見3)
地元大学との関係維持
地域貢献、IR効果を期待
地元大学との共同研究等のつながりを得やすい
地元指向の学生を採用しやすい
採用での実績があると、大学との協力関係を築きやすい
大学との連携(研究開発および実務)を期待

4. 企業の地域密着性

地域貢献
地元密着した企業
地域密着の観点から
地域密着が経営方針の1つ
地域密着の金融機関として発展
地元への貢献の意識

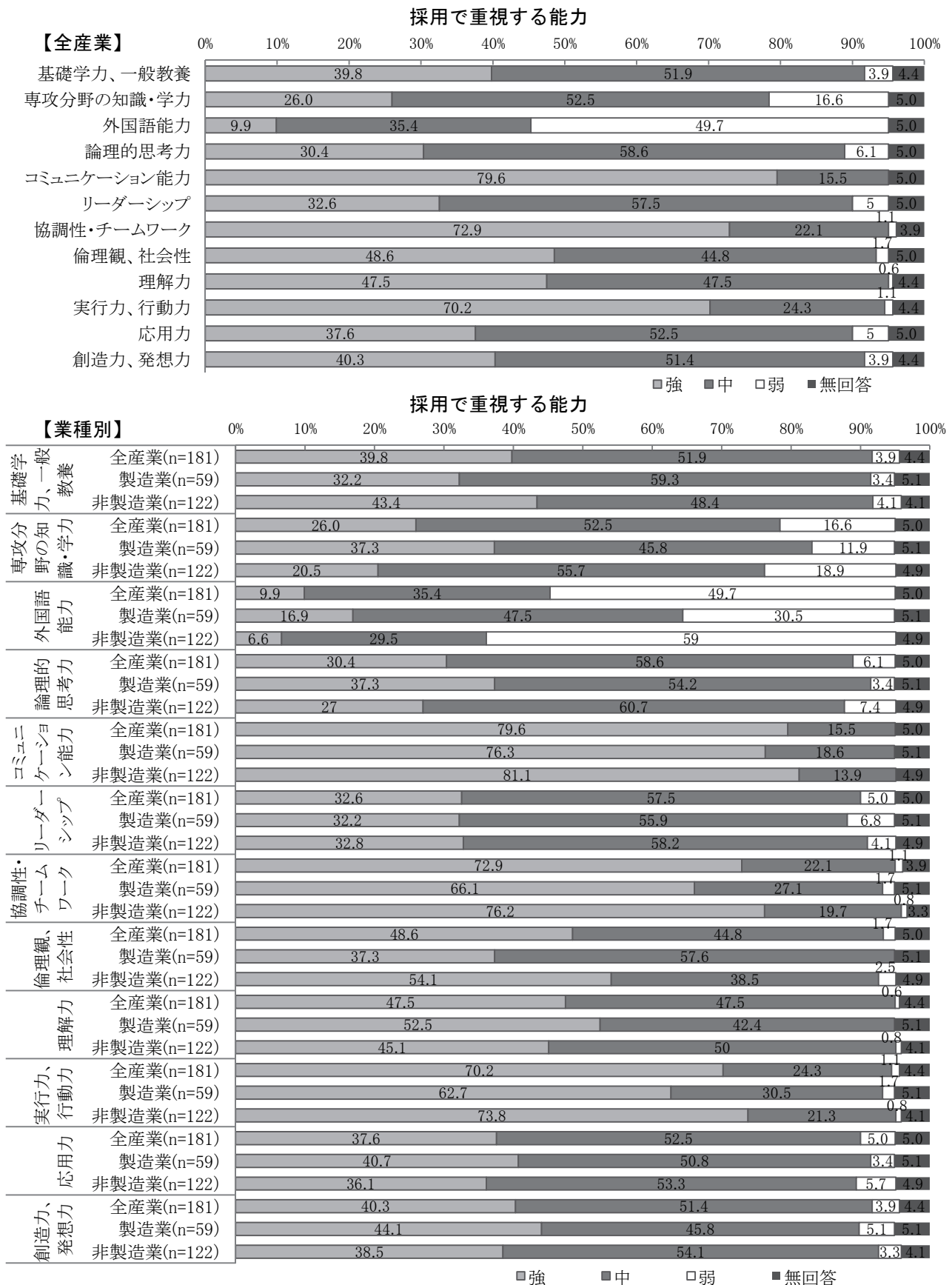
5. 人的ネットワーク

地域の人脈活用(ほか同様意見1)
交友関係を活かしたビジネス展開を期待
地場の顧客との営業活動に有効(ほか同様意見1)
地元大学卒業生を通じたネットワークの利用

III その他 (1. 産業人材の育成・活用)

Q.3

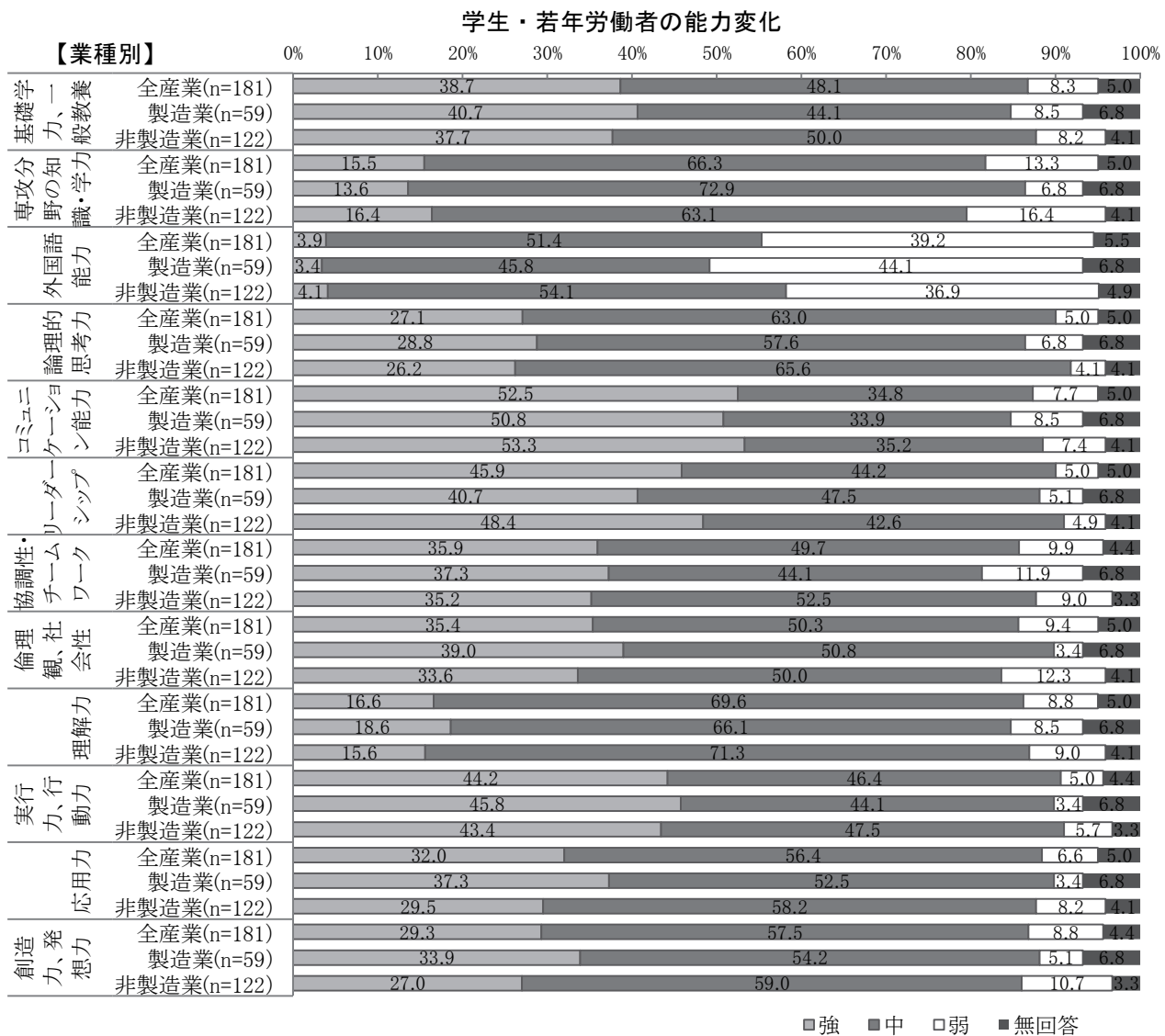
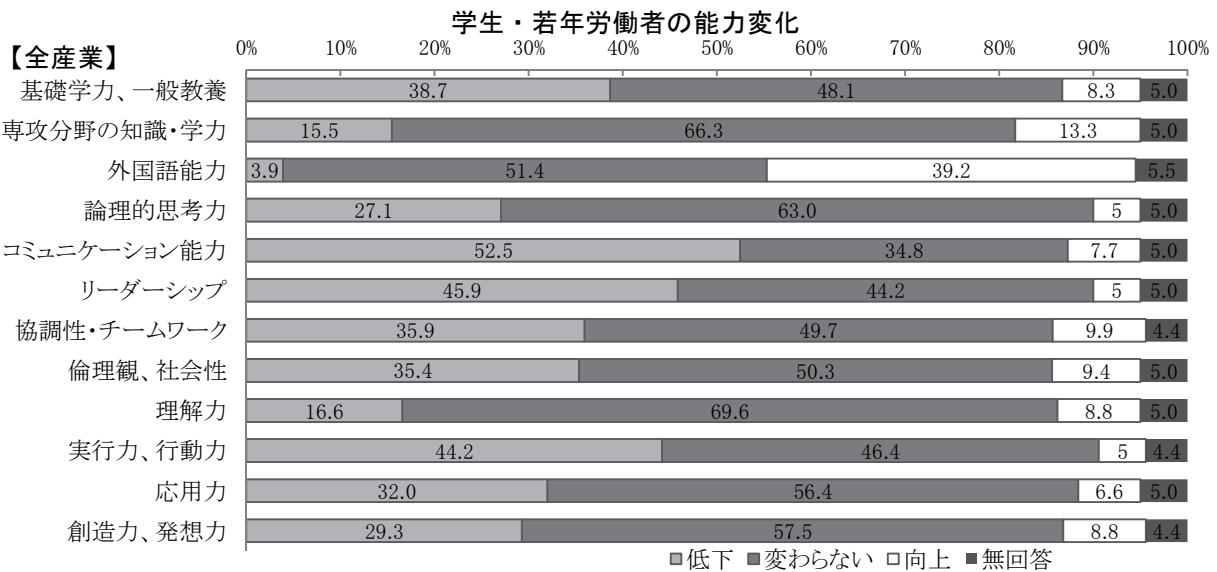
採用の際どのような能力を重視していますか。またその程度をお答えください。



III その他 (1. 産業人材の育成・活用)

Q.4

最近の学生及び若年労働者の能力について以前に比べてどのような変化があるか。



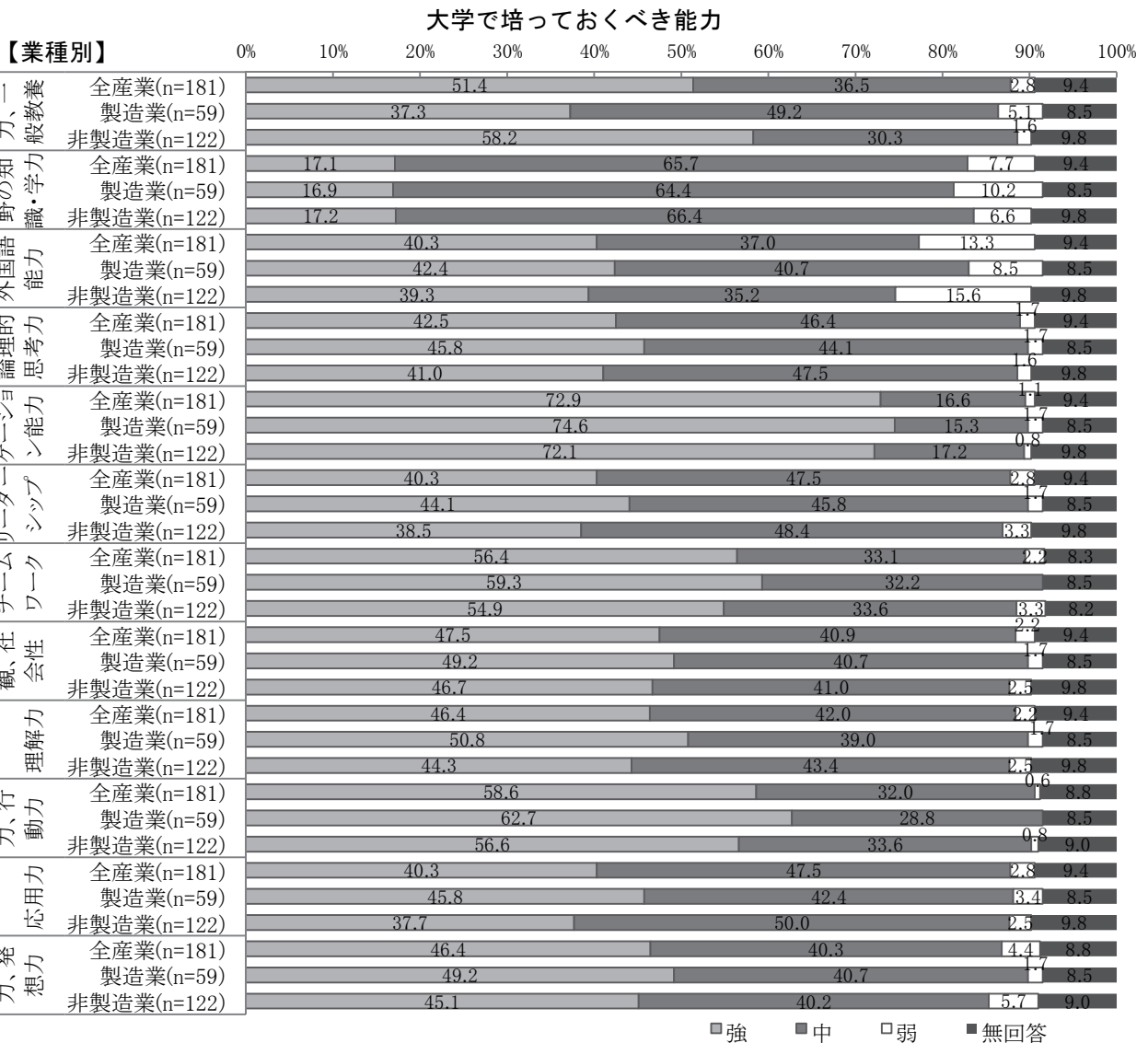
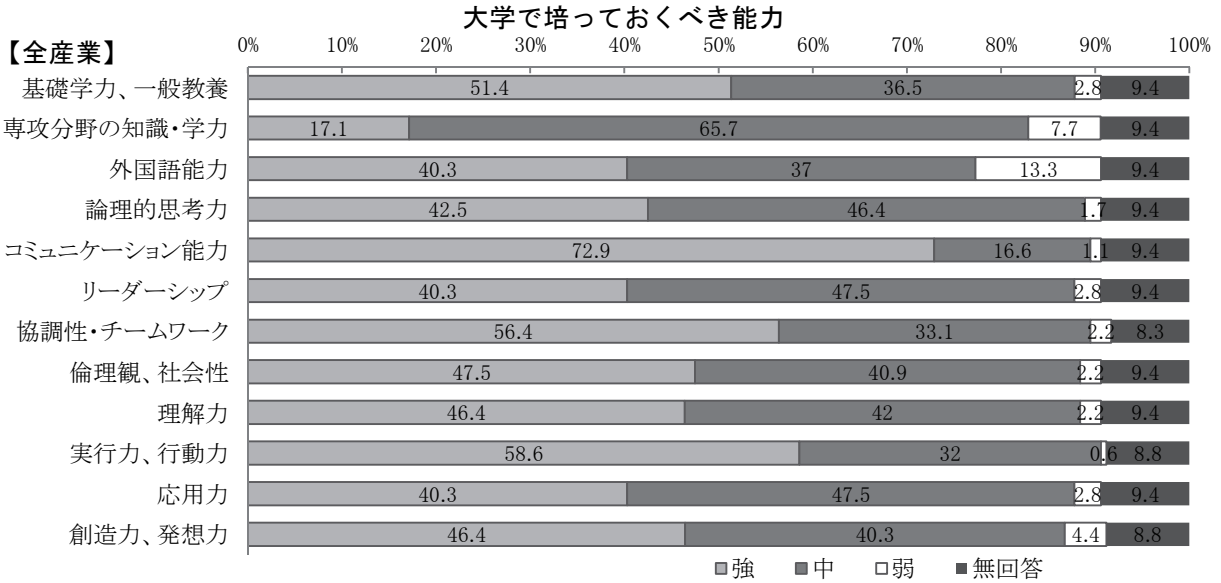
III

その他 (1. 産業人材の育成・活用)

Q.5

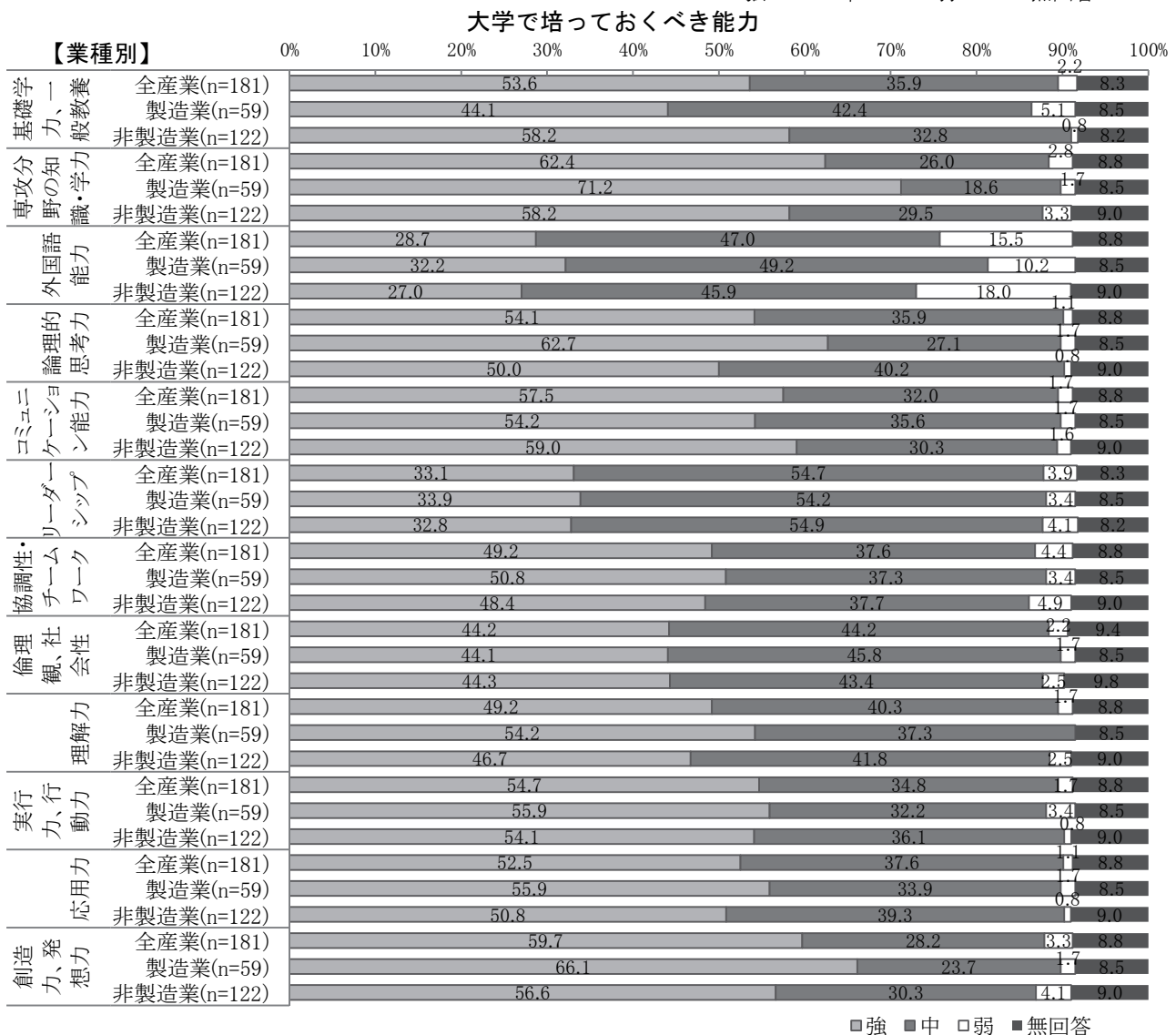
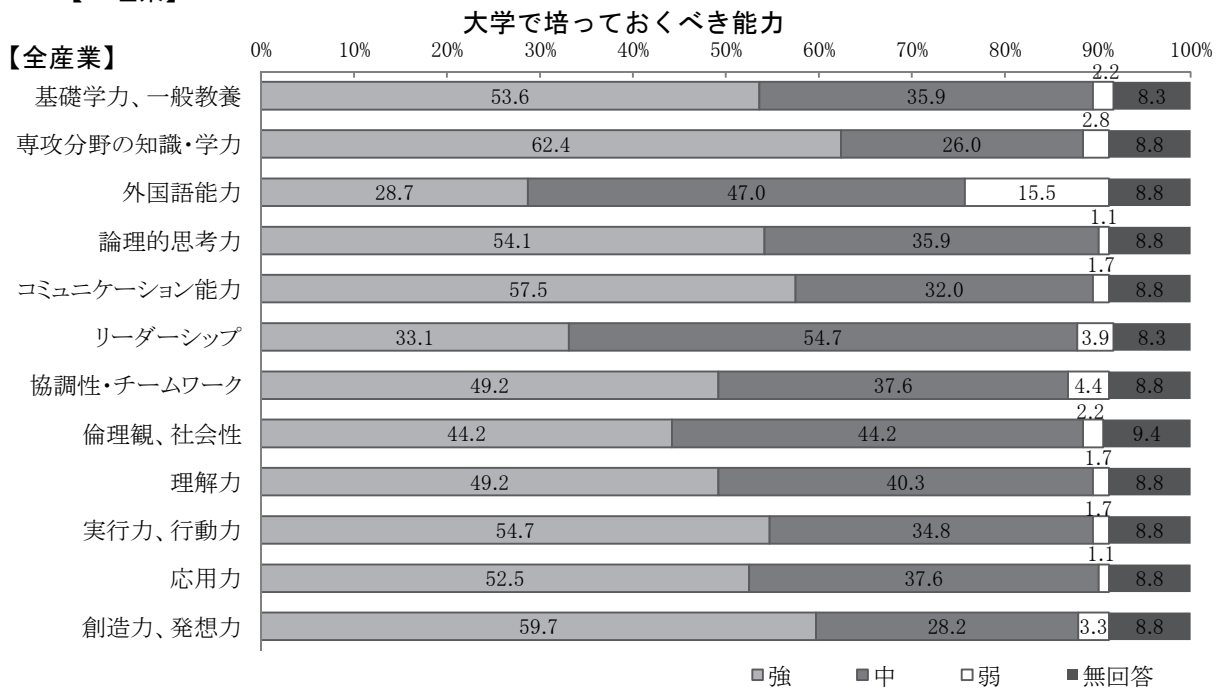
大学の学校教育で培っておくことが期待される能力はどのようなものですか。(文系・理系別)

【A. 文系】



III その他 (1. 産業人材の育成・活用)

【B. 理系】

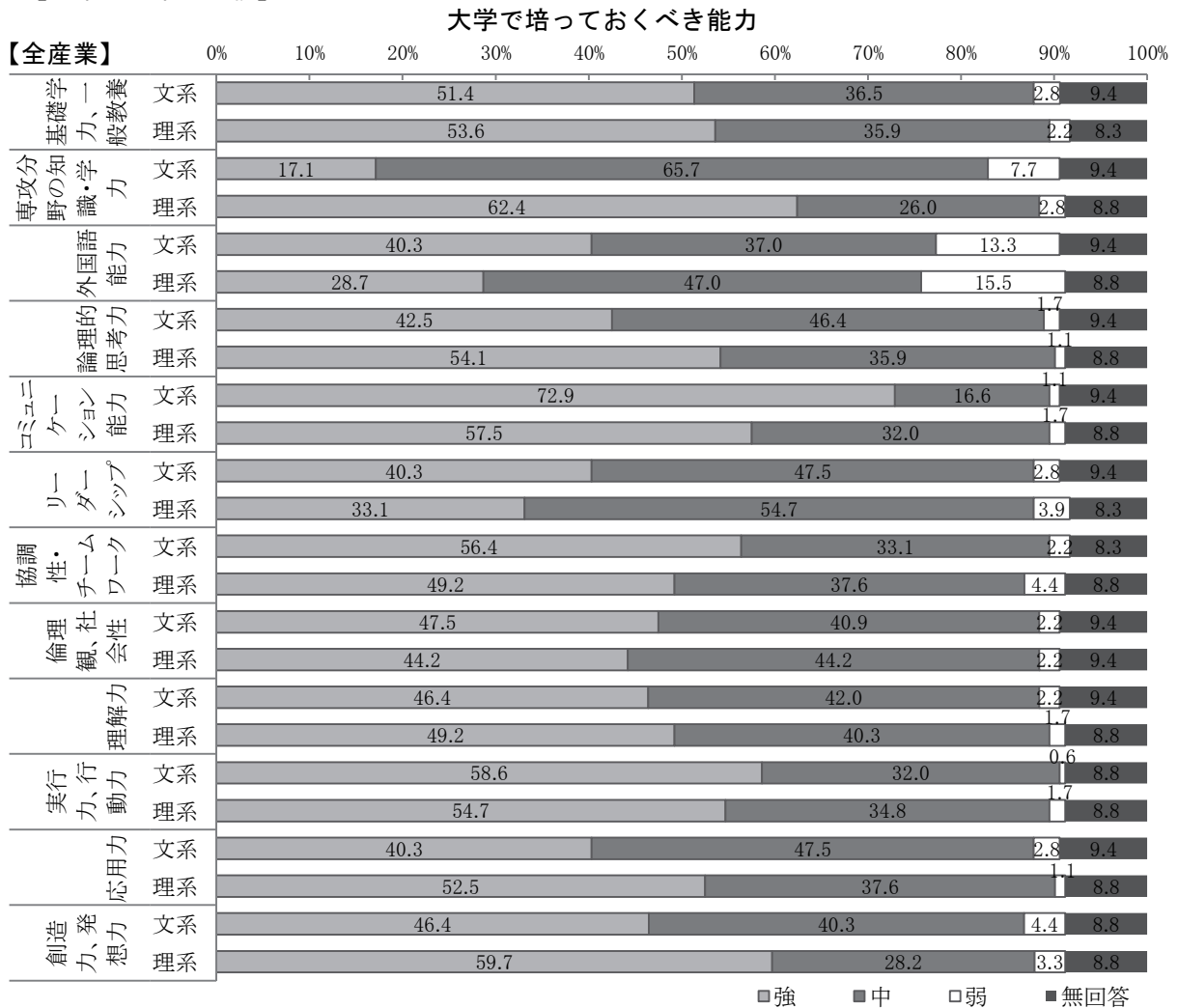


III その他 (1. 産業人材の育成・活用)

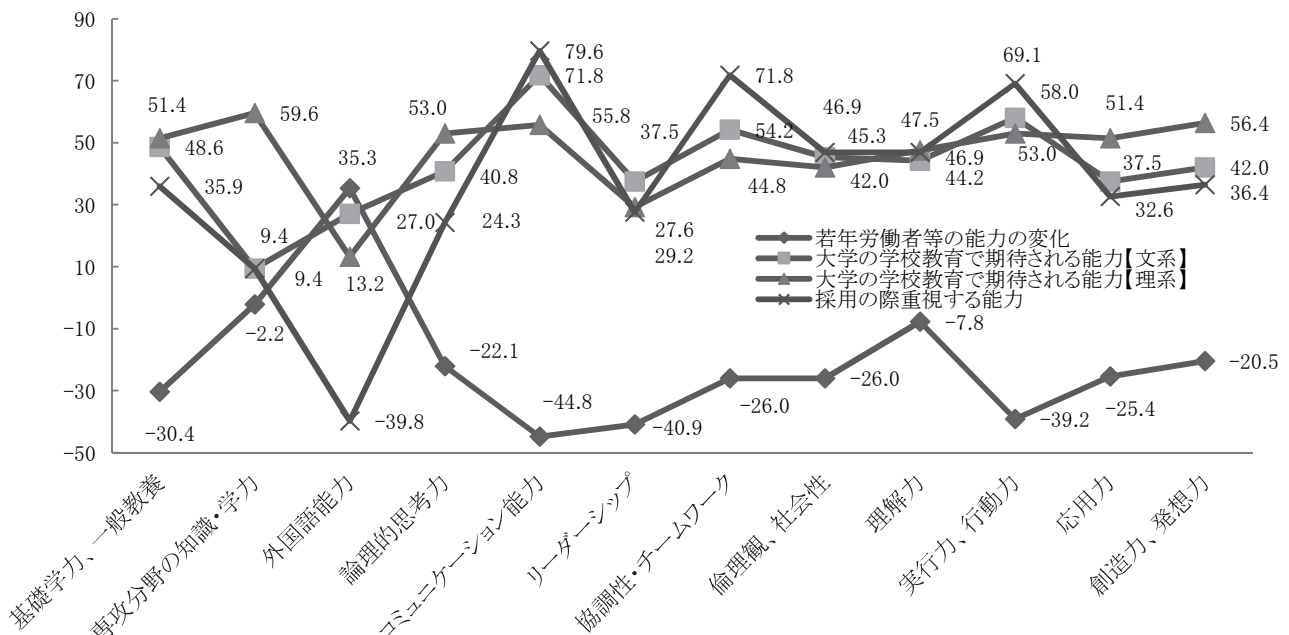
Q.3~5

大学の学校教育で培っておくことが期待される能力はどのようなものですか。(文系・理系別)

【文系と理系の比較】



採用で重視する能力、若年労働者の能力の変化、学校教育で期待される能力の比較



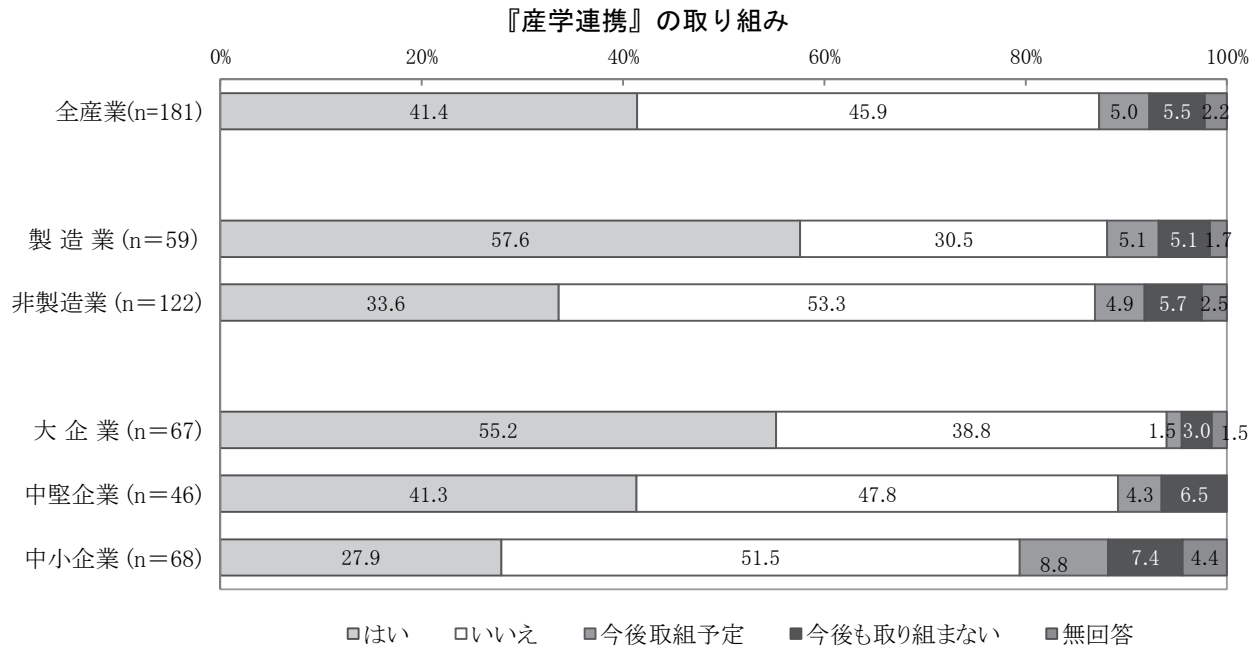
※「強or向上」の比率から「弱or低下」の比率を引いた指数での比較

III その他 (2. 産学連携の取り組み)

2. 産学連携の取り組みについてお聞かせください

Q.1

貴社においては『産学連携』に取り組んでいますか？



Q.2

Q.1で「はい」「今後取組予定」と回答された方へ
具体的な活動内容(予定含む)をお教えてください。(自由記述)

・共同研究

新技術、新分野等での共同研究 (ほか同様意見32)
産学連携商品開発 (ほか同様意見1)
共同研究講座を設置
委託研究
効果・効能の分析依頼
社会科学分野の共同調査
商品デザイン

・インターンシップ

インターンシップの実施 (ほか同様意見6)
大学の地域産業見学に協力

・ドネーション(寄付・寄贈)

学術研究活動支援を目的に、各教育機関への助成活動を実施
人材育成への協力 (寄付)

・講師派遣

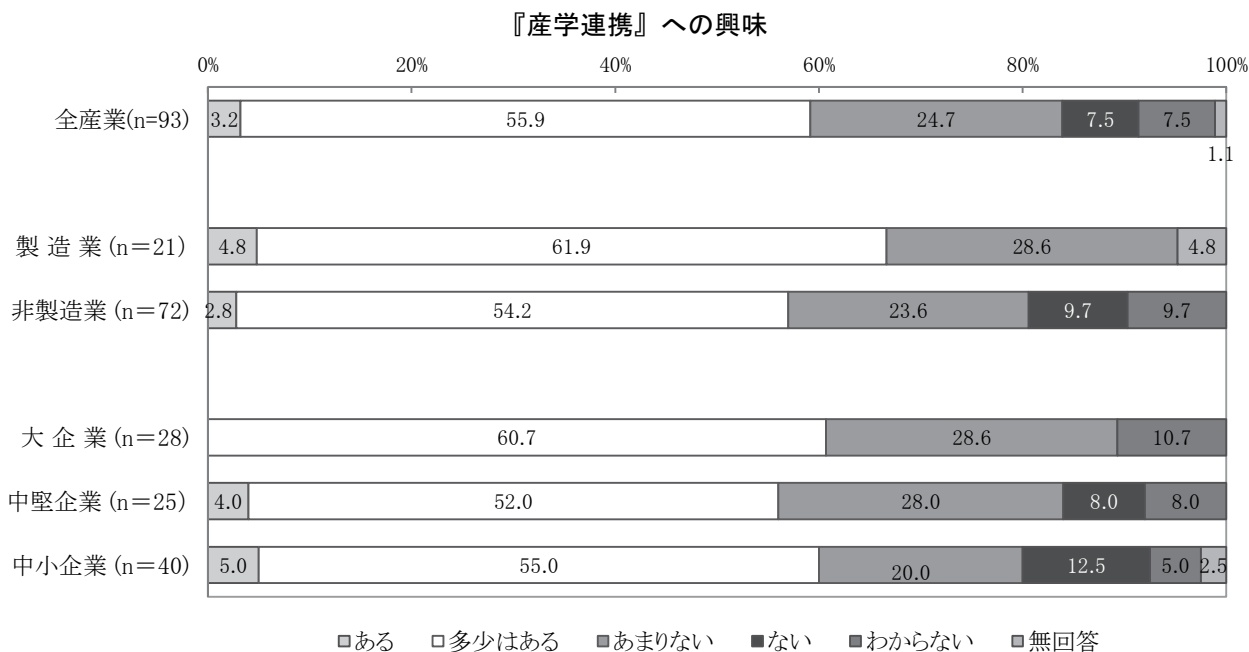
大学からの要請を受け、講師などに社員を派遣
夏休みなどに小中学生を招き、お金に関する知識などを教育
大学のPBL (課題解決型学習) に参加

・その他

人材育成、採用面での協力
 教職員（公務員）採用試験官に協力
 新卒採用での連携

Q.3

Q.1で「いいえ」「今後も取り組むことはない」と回答された方へ『産学連携』に興味はありますか。



Q.3

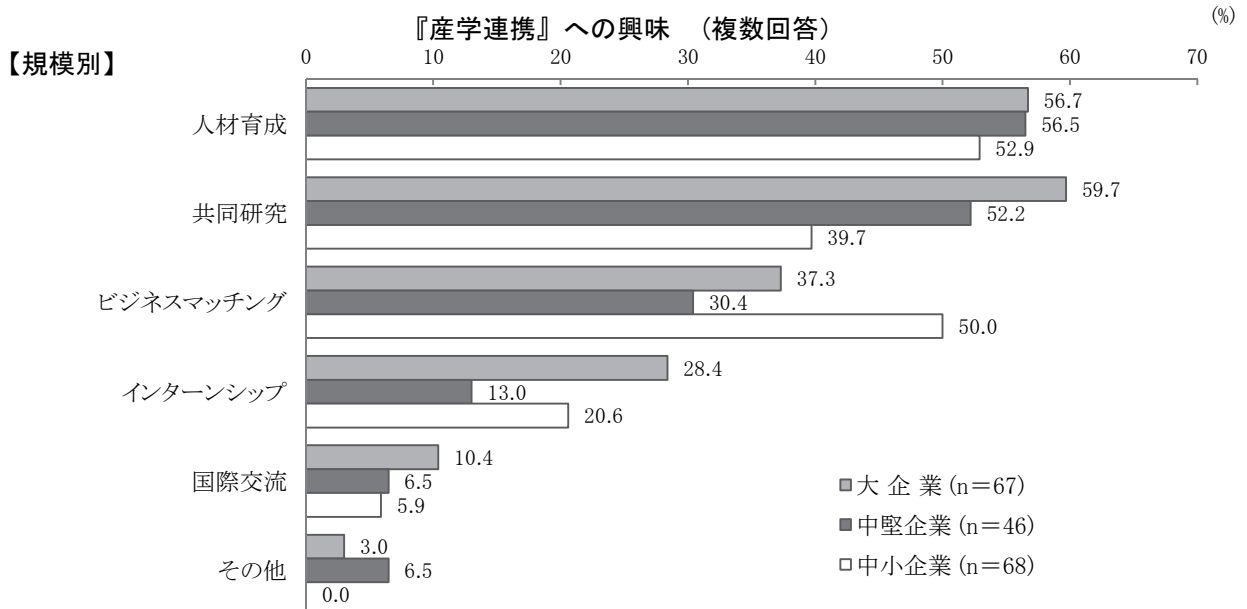
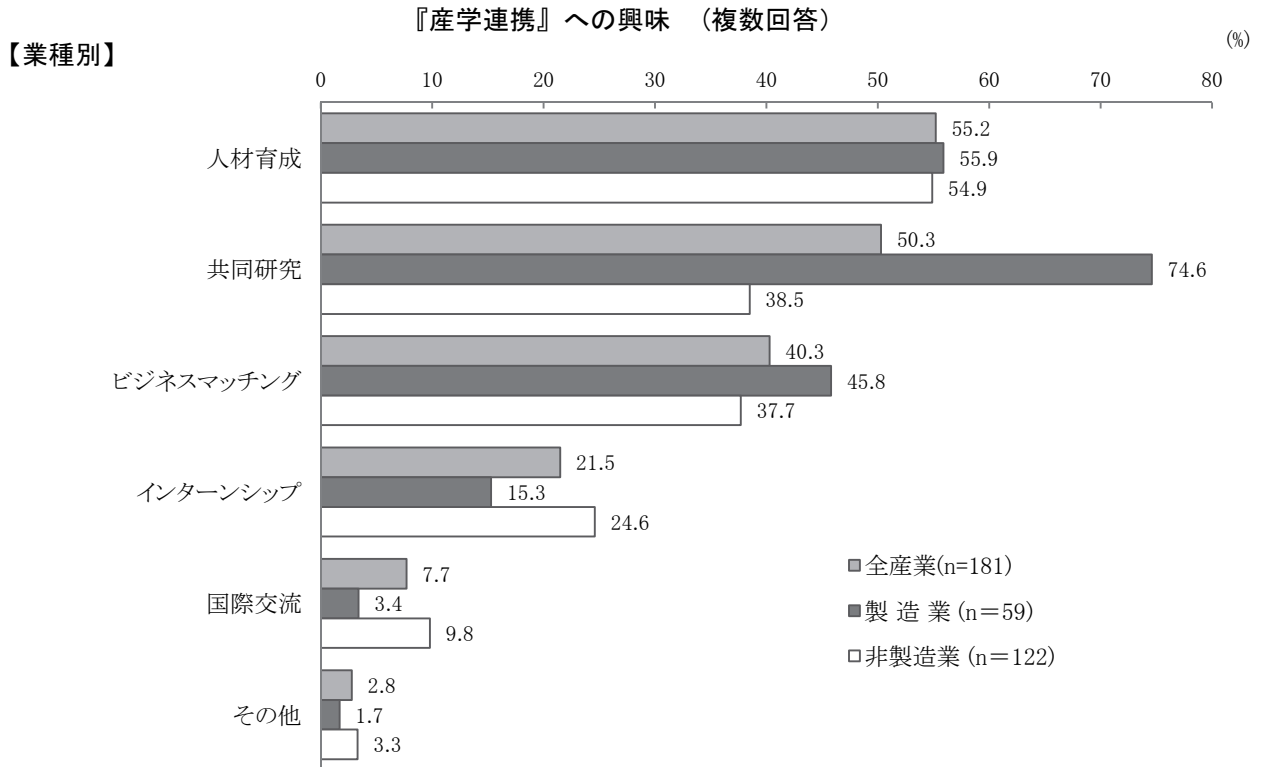
Q.3で「あまりない」「ない」「わからない」と回答された方へその理由をお聞かせください(自由回答)

取り組むべきテーマがない
 事業の分野が大学で研究対象にない
 事業との関係があまりない
 大学側が興味を示していない

III その他 (2. 産学連携の取り組み)

Q.4

『産学連携』に求めるものは何ですか。
(3つまで回答可)



◎『その他』の具体的な回答

- 持続的成長・発展
- 情報交換
- 環境分野での意見交換
- 大学との良好な関係の構築
- 地域活性化

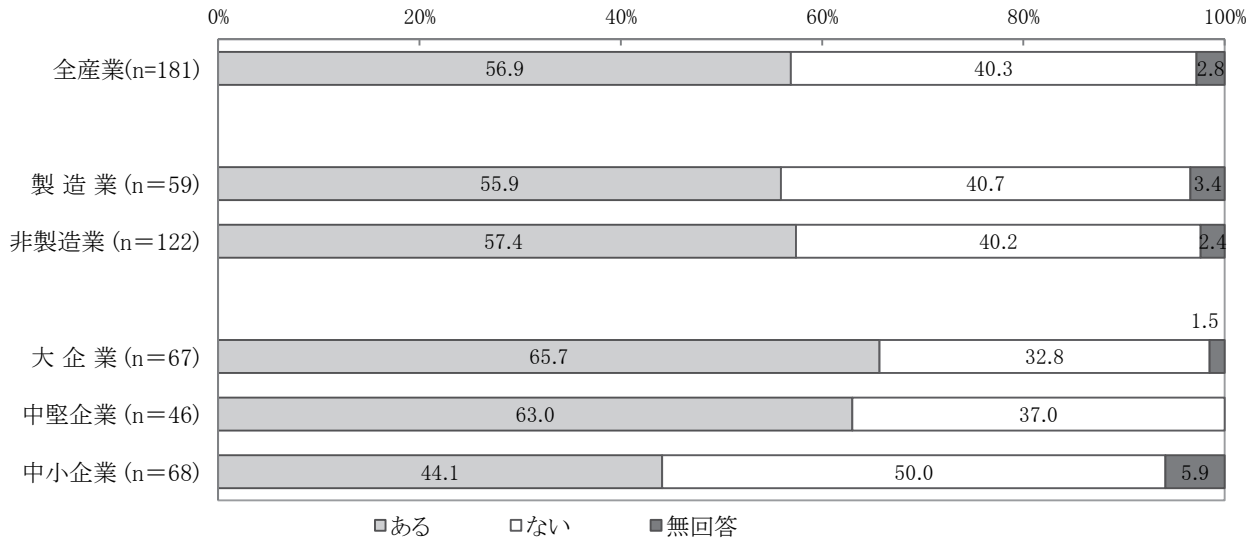
III その他 (3. 大学生のインターンシップ)

3・大学生のインターンシップについてお聞きます。

Q.1

貴社では、大学生をインターンシップとして受け入れたことがありますか。

大学生のインターンシップ受入



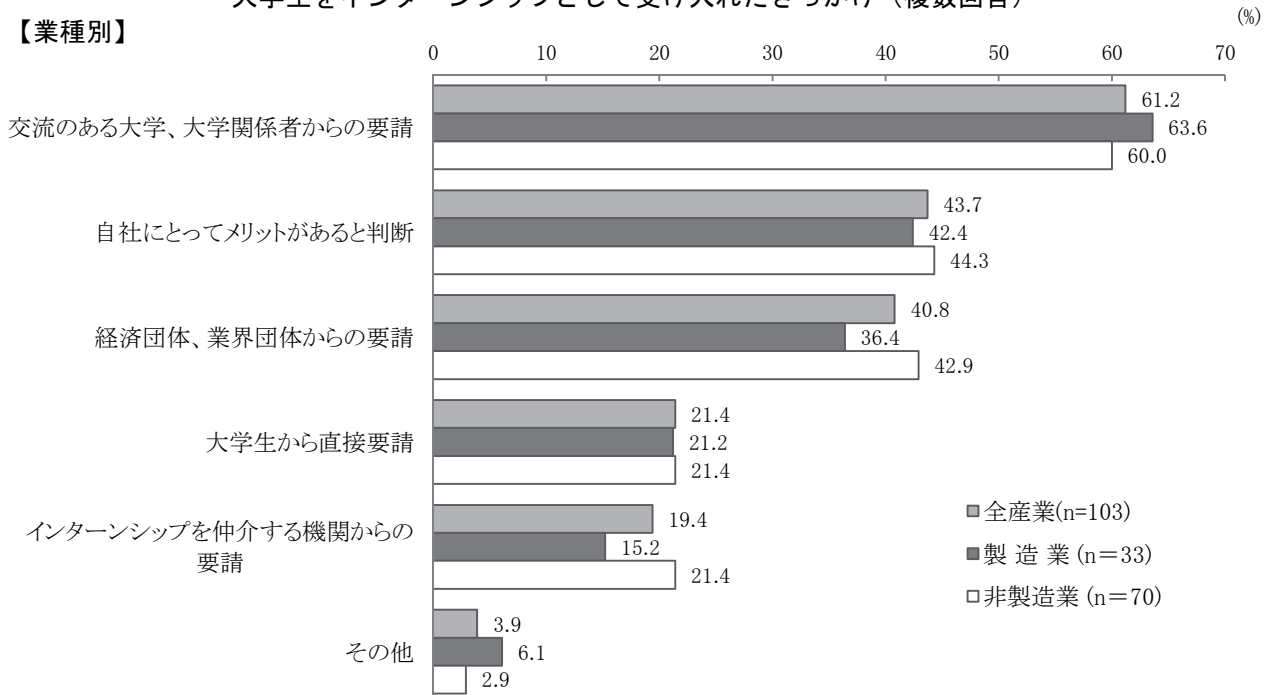
- ・インターンシップとは、一般企業等が学生、生徒を一定期間受入、一般企業等の仕事を体験させる仕組みのことを指します(アルバイトなど雇用によるものを除きます)。
- ・大学生とは4年生学部在籍する学部生の事を指します。ただし、大学生と同じインターンシッププログラムで受け入れる場合は、大学院生、留学生も含めます。

Q.2

Q.1で「はい」と回答された方へ
受け入れを決定したきっかけは何ですか。(複数回答可)

大学生をインターンシップとして受け入れたきっかけ(複数回答)

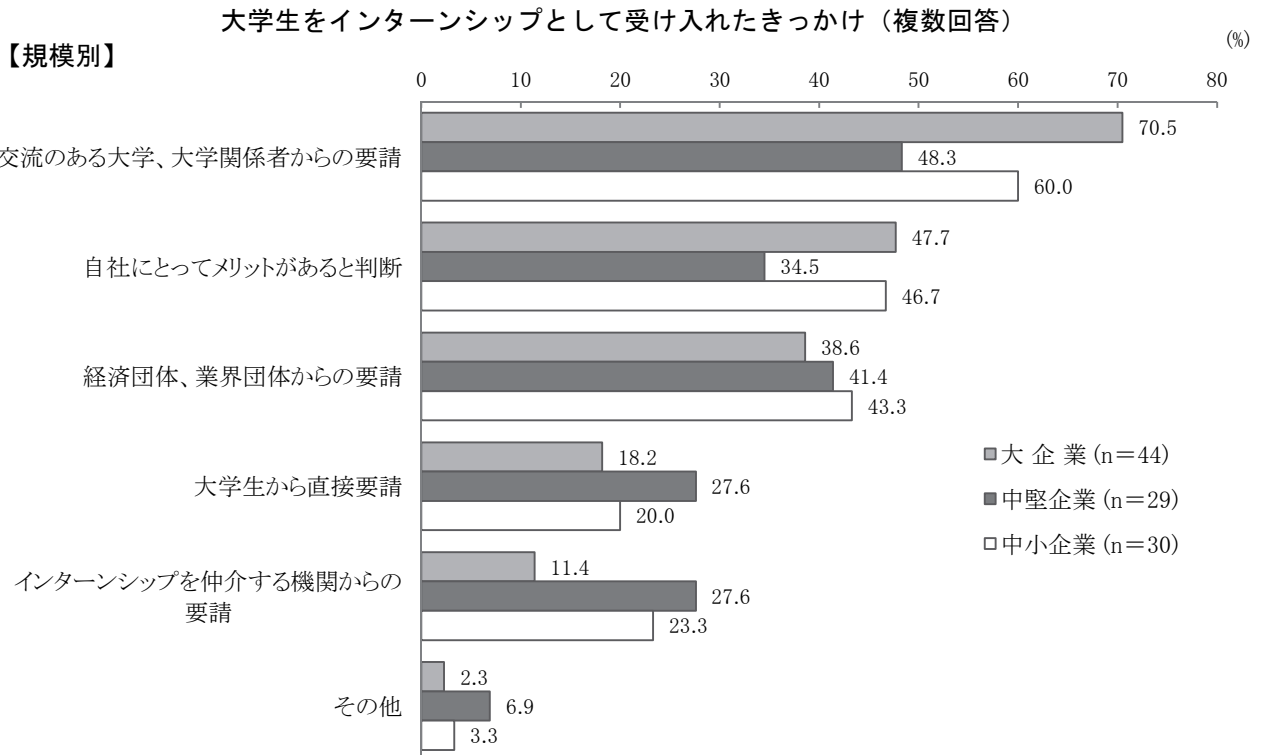
【業種別】



III その他 (3. 大学生のインターンシップ)

Q.2

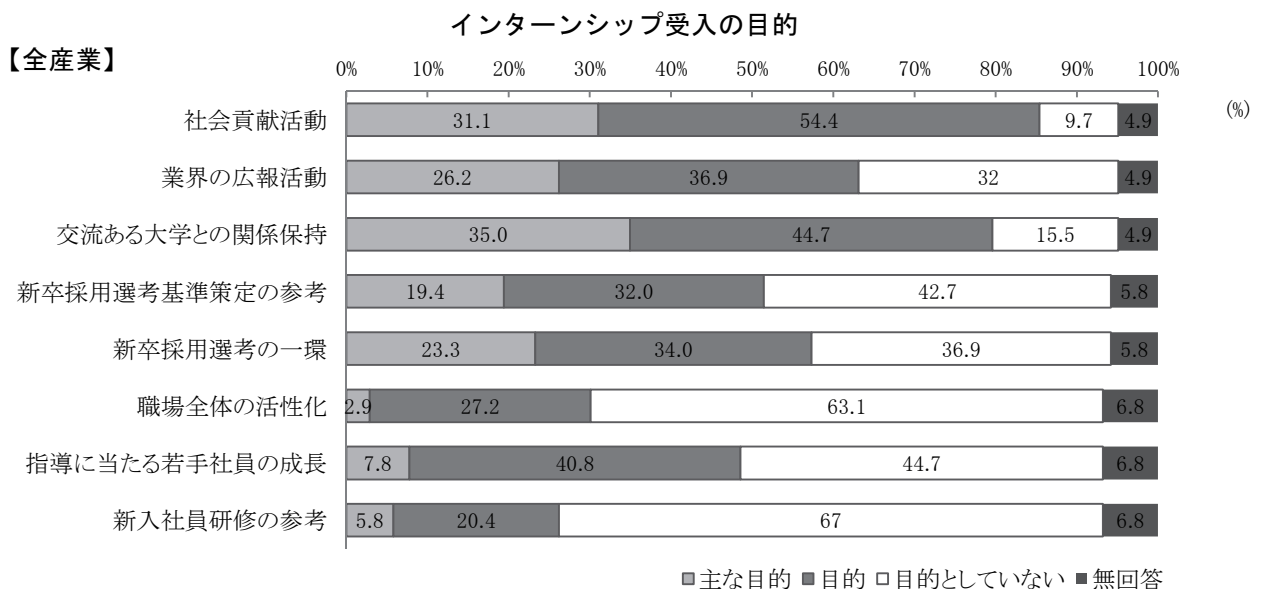
Q.1で「はい」と回答された方へ
受け入れを決定したきっかけは何ですか。(複数回答可)



◎その他の具体的記述
一人ひとりのキャリアをデザインする一助となりたい

Q.3

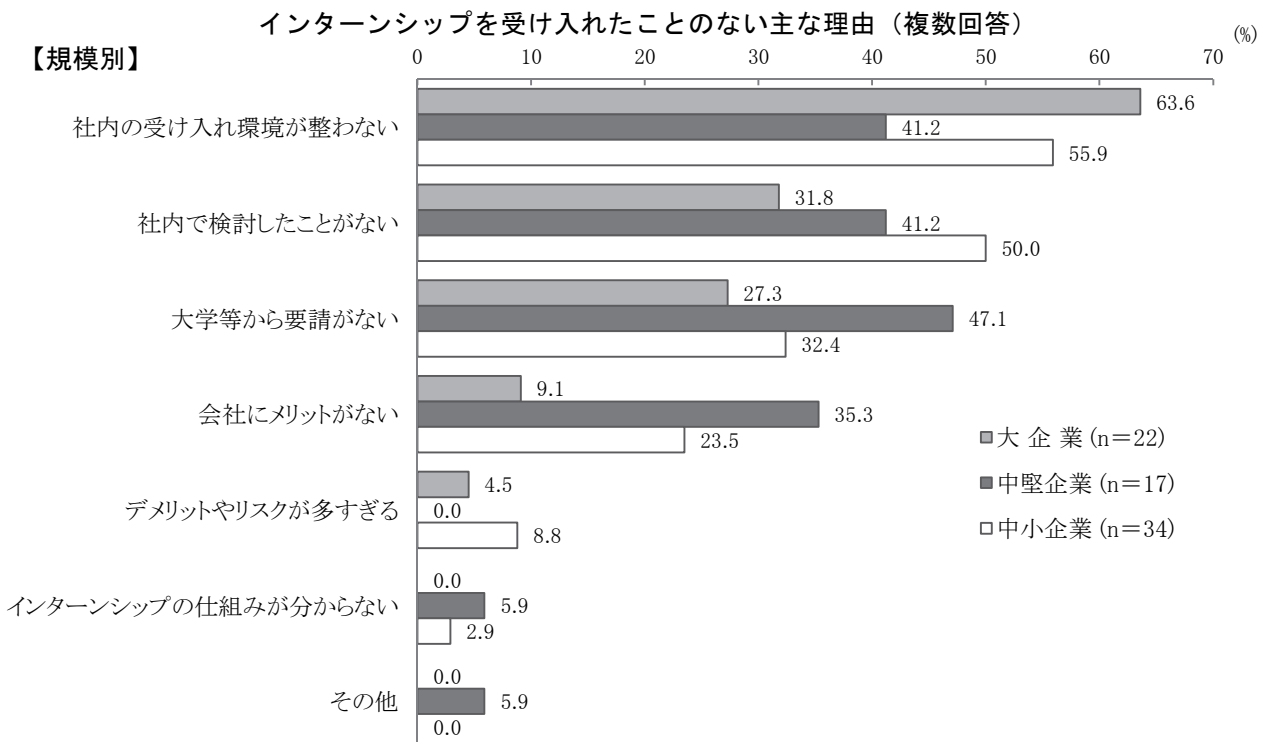
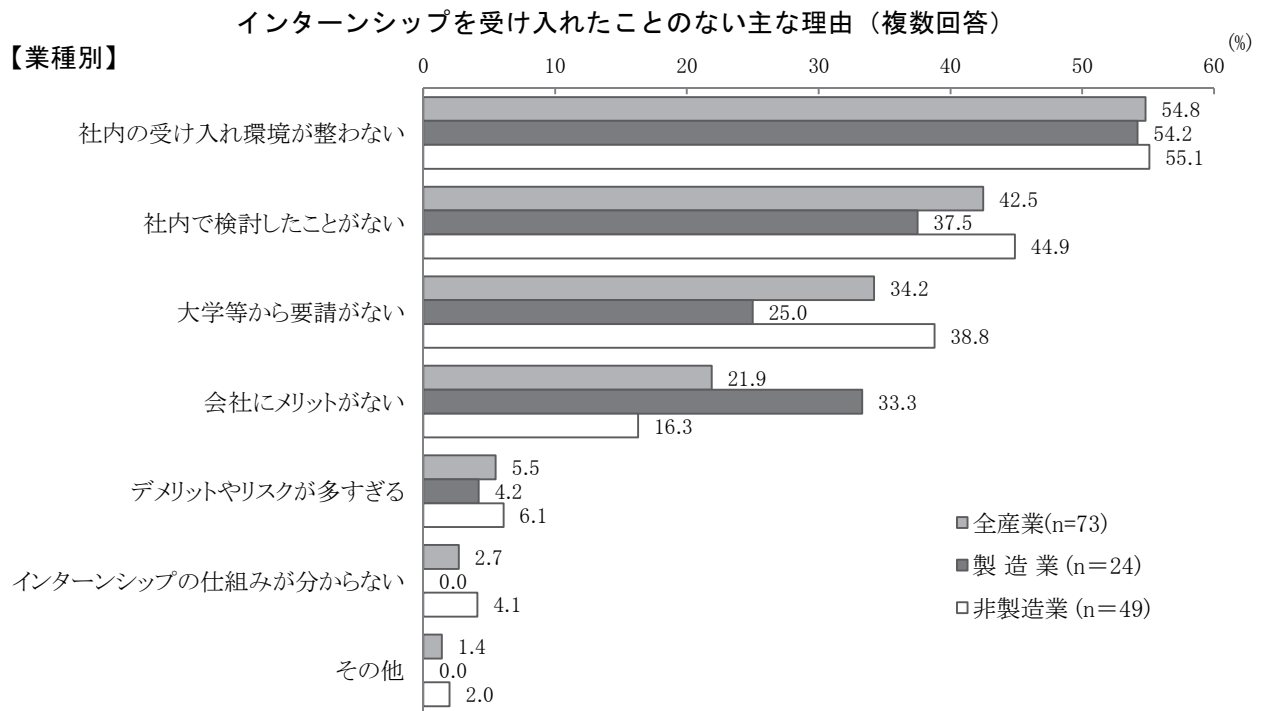
Q.1で「はい」と回答された方へ
受け入れている目的の評価をお答えください。(3段階評価)



III その他 (3. 大学生のインターンシップ)

Q.4

Q.1で「いいえ」と回答された方へ
受け入れたことのない主な理由をお答えください。(複数回答可)



Q.5

どのような条件を整えば受け入れることが可能になりますか。自由に記述して下さい。

小売業界で有効なインターンシッププログラム
目標の共有

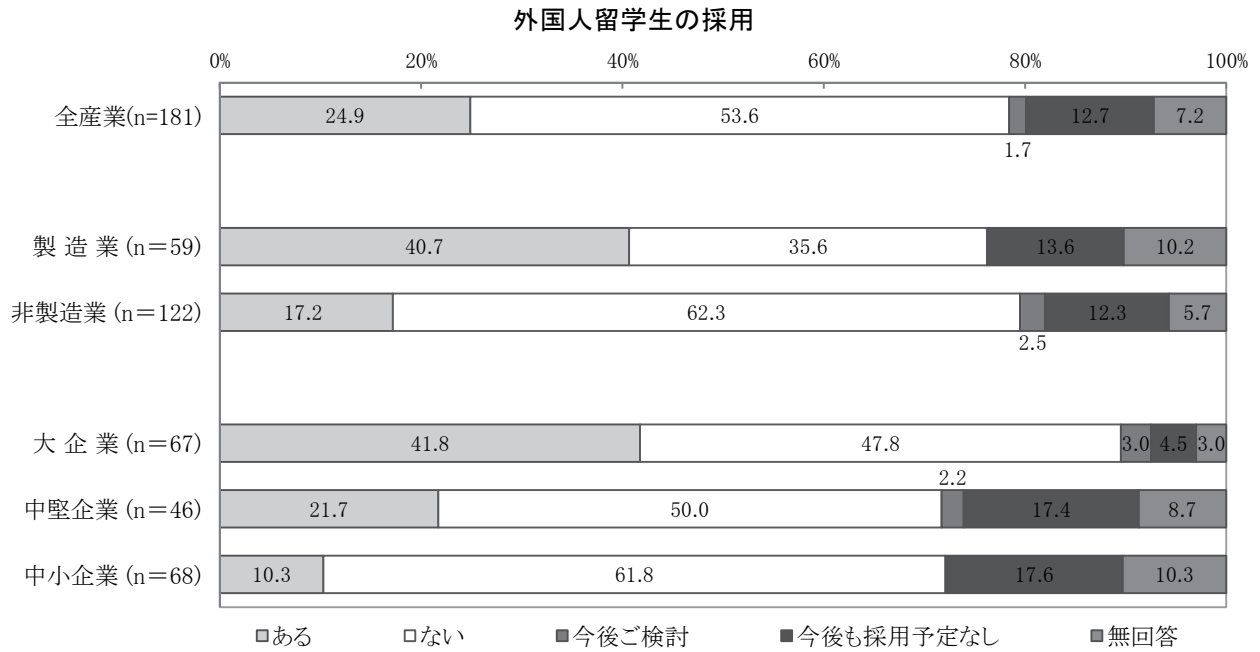
採用に結び付く制度

III その他 (4. 外国人留学生の活用)

4・外国人留学生の活用についてお聞きます。

Q.1

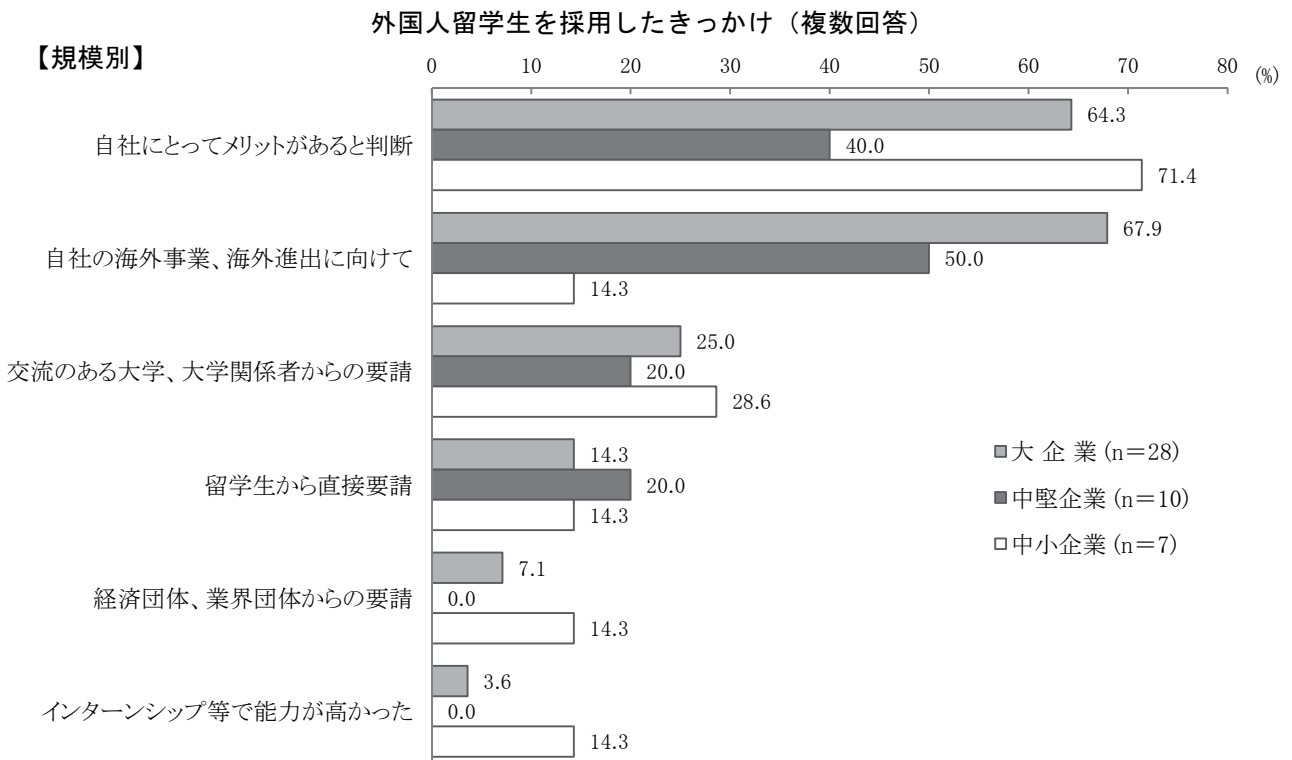
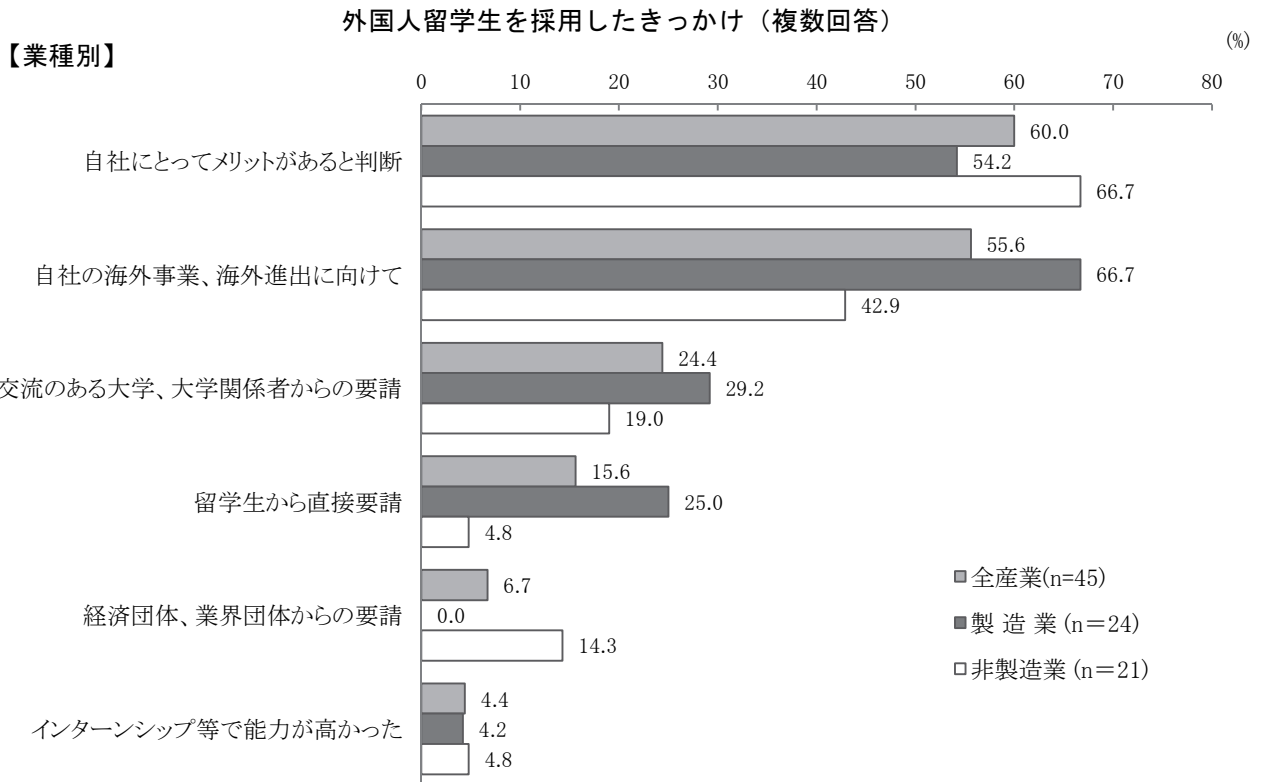
貴社では、外国人留学生を採用したことがありますか。



III その他 (4. 外国人留学生の活用)

Q.2

Q.1で「採用したことがある」と回答された方へ
採用を決定したきっかけは何ですか。(複数回答可)



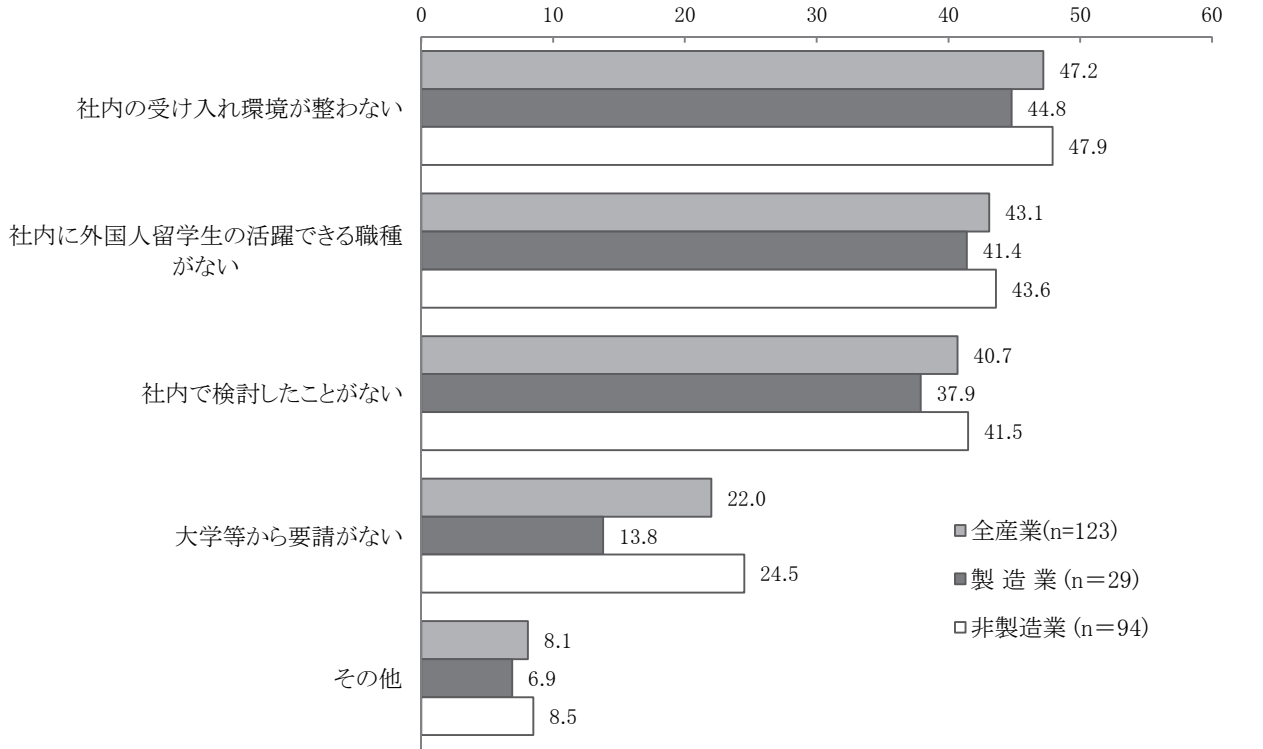
◎その他の具体的な記述
グローバル人材の確保
日本人と区別せず選考した結果
通常どおり選考した結果、採用するに値する資質を備えていた

Q.3

Q.1で「採用したことはない」「今後検討」「今後も予定なし」と回答された方へ採用したことの無い主な理由をお答えください。(複数回答可)

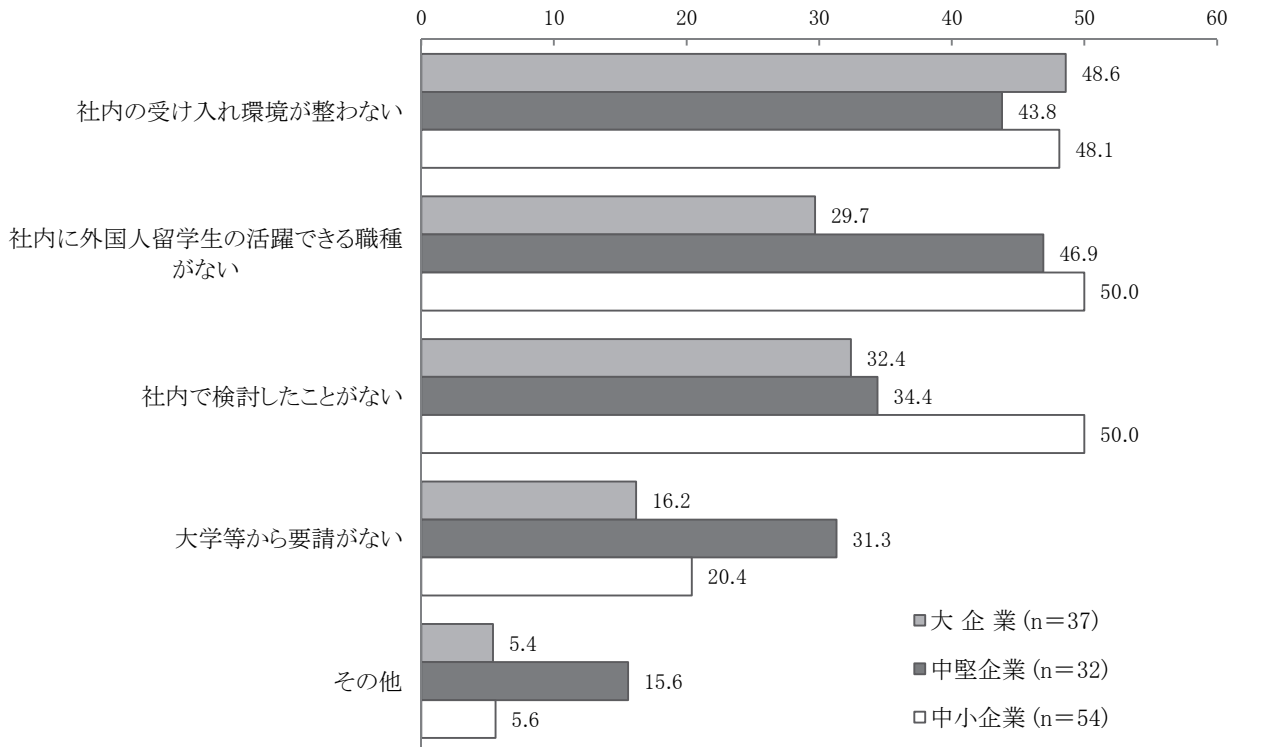
外国人留学生を採用したことの無い主な理由 (複数回答)

【業種別】



外国人留学生を採用したことの無い主な理由 (複数回答)

【規模別】



Q.4

どのような条件を整えば採用することが可能になりますか。自由に記述して下さい。

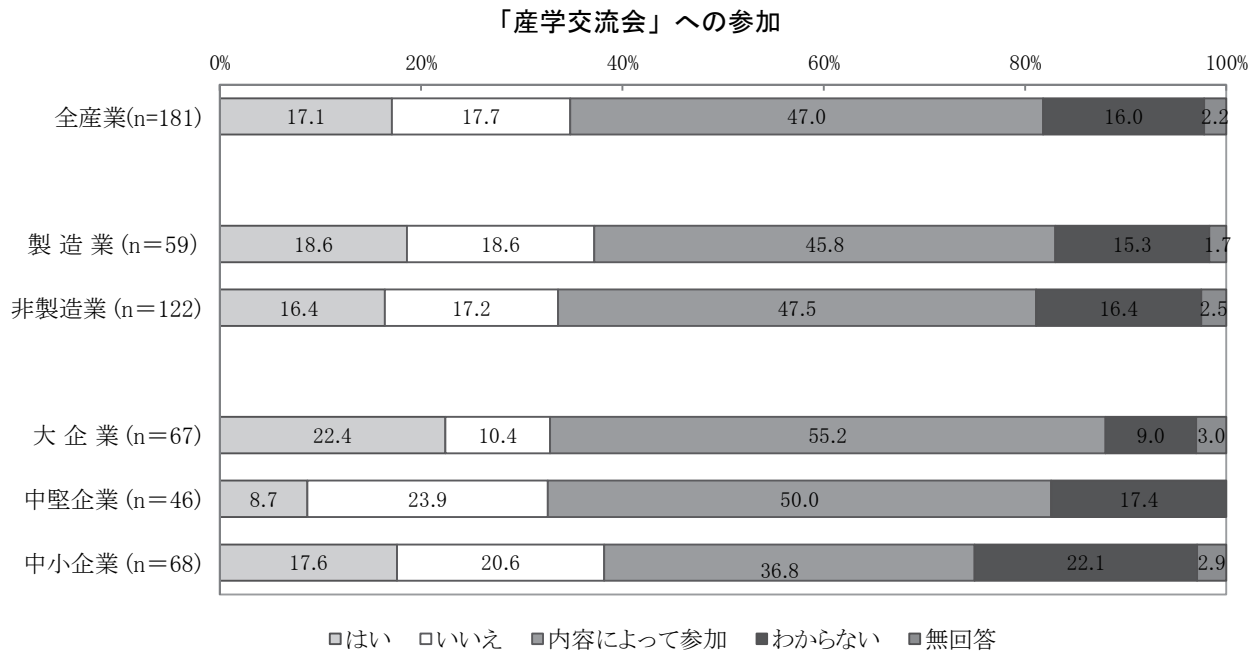
日本語でのコミュニケーションが円滑にできること（ほか同様意見4）
日本での勤務経験があり、日本人と同じ様に社会生活ができること
面接で求めるレベルに達すれば採用可能（ほか同様意見3）
本人による宿泊場所、交通手段の確保
海外取引の拡大（ほか同様意見3）
海外交流の拡大
社内での受入環境の整備
（社内制度、担当者の育成、育成プログラムの作成、採用計画、語学の教育訓練）
本社採用の外国人留学生を地方赴任させるための社内制度の整備
年齢と諸条件が合えば採用可能
外国人労働者が国内で働く場合の規制が無くなった場合
職種の拡大
大学からの要請があれば検討
インターンシップでの効果検証
採用にあたっての補助制度
メリットの明確化

III その他 (5. 産学連携交流会)

5. 「産学連携交流会」についてお聞きます。

Q.1

「産学連携交流会」に参加を希望しますか？



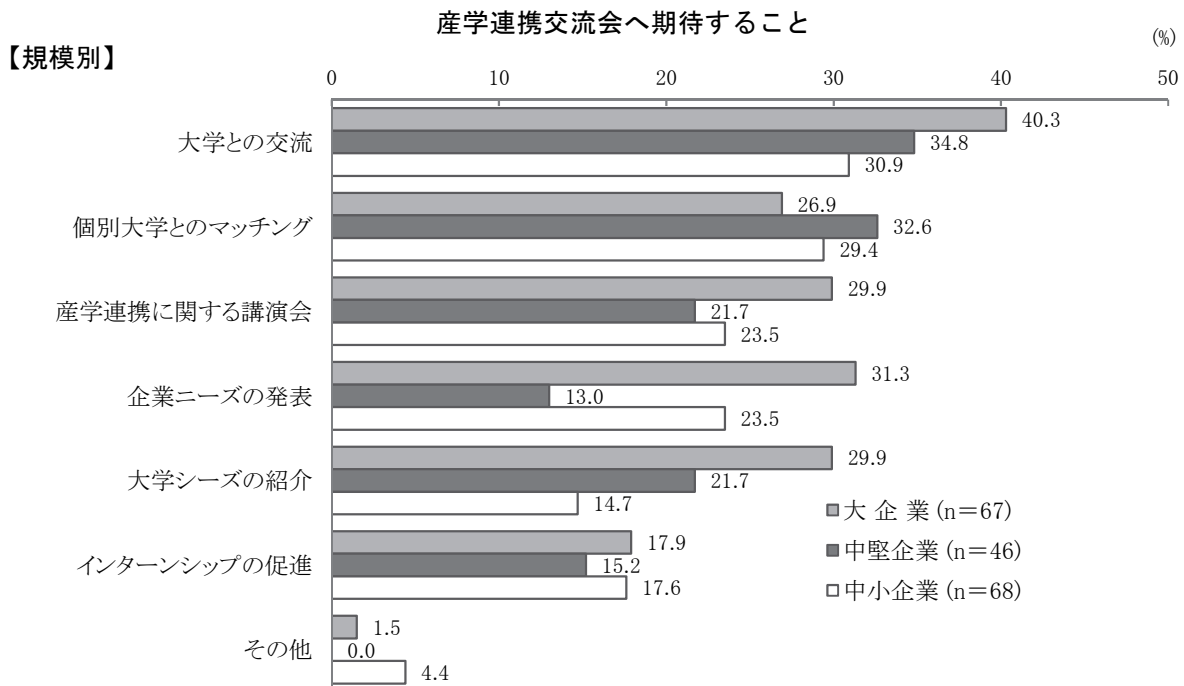
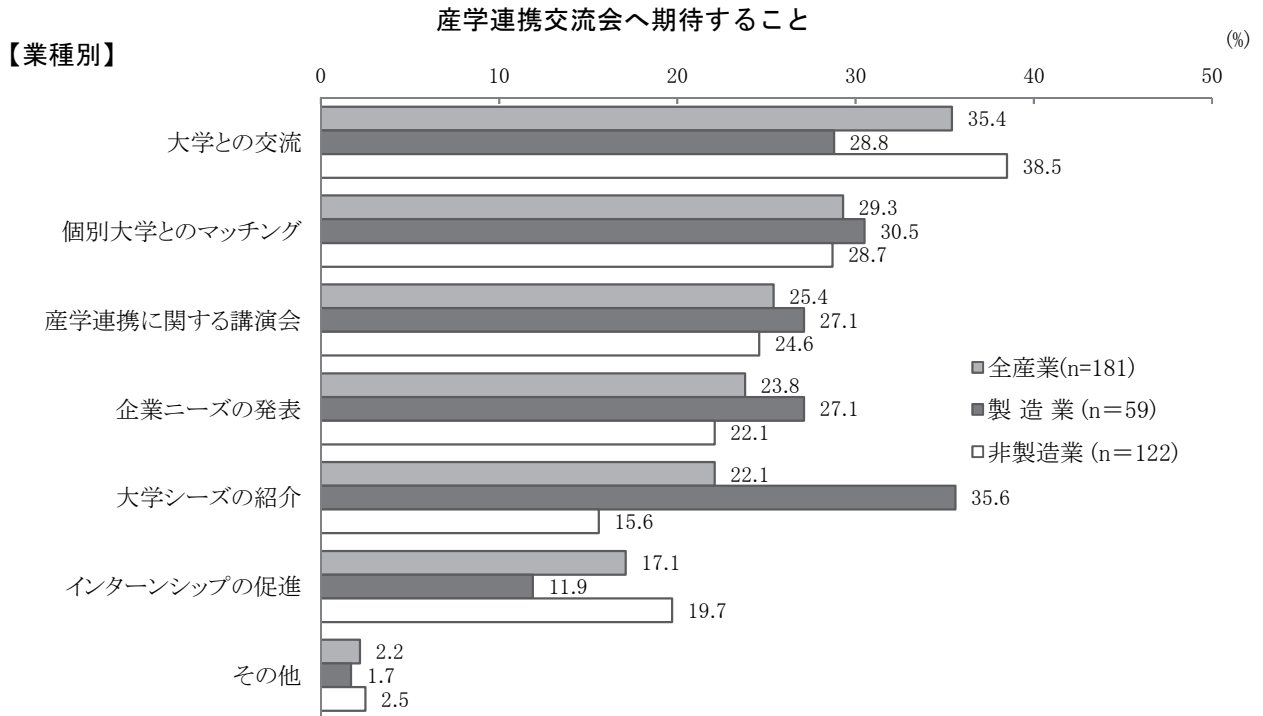
Q.1

Q.1で「いいえ」と回答された方へ
その理由をお聞かせください(自由回答)

中小企業においてあてはまる研究者がいない
支社単位での連携には限界があるため

Q.2

産学連携交流会にどのようなことを期待しますか。
(複数回答可)



◎『その他』の具体的な回答

学生と企業の方向性を確認したい

Q.3

交流会は年数回開催予定です。『産学連携』の中で毎回テーマを選定したいと考えております。
テーマとしてご希望案がございましたら自由にご記入ください。

人材育成(ほか同様意見13)
(企業の求める人材、人材育成の方向性、事例発表等)
「大学シーズ」と「企業ニーズ」がマッチングする機会(ほか同様意見4)
産学連携の成功事例紹介
インターンシップの活用事例
国際交流
ものづくり企業への支援(ほか同様意見1)
人材確保
各業種の魅力と将来展望
学生のアイデア(ほか同様意見2)
異文化の交流
まちづくり、むらづくりの参考
地域おこし
地域社会の課題、ニーズへの対応策を議論するシンポジウム
IT関連

平成26年11月21日発行

北陸経済連合会

HOKURIKU ECONOMIC FEDERATION

〒920-0981 金沢市片町2-2-15 北国ビルディング4階

TEL : 076-232-0472 FAX : 076-262-8127

e-mail info@hokkeiren.gr.jp

URL <http://www.hokkeiren.gr.jp>

北陸物語 facebook

<https://www.facebook.com/hokuriku.monogatari>